平成 28 年度

事　業　報　告　書

公益財団法人しまね自然と環境財団

島根県立三瓶自然館サヒメル

三瓶小豆原埋没林公園

三瓶山火の原キャンプ場

しまねエコライフサポートセンター

はじめに

公益財団法人しまね自然と環境財団が管理運営している中心的施設の三瓶自然館は、平成28年度に開館25周年を迎えるとともに、累計入館者も300万人に達する記念すべき年となりました。島根県の自然系博物館として国立公園三瓶山をフィールドに、自然に親しむ場の提供とともに、展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進めたくさんの皆さんにご利用いただいているところです。

四半世紀を一つの節目として、これまでの取り組みを振り返りながら企画展やイベントや25周年を記念した事業を実施しました。春の企画展では開館以来、自然館に寄贈や提供を受けた多くの標本類の中から、学芸員一押しの収蔵標本を展示し、期間中にビジュアルドームのデジタル化が完了したことから小学生を招いた記念式典を開催しました。また、7月には開館25周年記念行事として、地元小学生と未来の三瓶について語り合う「さんべ夢未来サミット」を開催するとともに、夏期企画展「ジュラシック・シー～海の恐竜とぐるぐるアンモナイト～」を実施したところです。さらに、11月5日には累計入館者数が300万人に達することができました。

このような企画展を中心に当館に足を運んでいただいた県内外の小中学生を中心とする皆さんには、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただいたものと思っています。

また、三瓶小豆原埋没林公園では、県により展示中の杉巨木の安定した保存方法についての検討と保存試験が行われ、29年度以降保存事業が実施されることとなりました。また、来園者に埋没林の持つ学術的価値と魅力を十分伝えることができるよう入館前のガイダンスを試験的に実施するとともに、施設の充実を引き続き要望しているところです。

一方、財団が大田市からの指定管理者として運営している北の原キャンプ場は、「豊かな自然環境を生かし、自然に親しむ場」となるよう管理運営に心がけ、28年度も引き続き多くの利用者を受け入れることができました。

21世紀は環境の時代と言われて久しいですが、松江事務所を中心に進めている環境保全活動事業では、行政や財団主導の活動から地域の環境保全活動を担うボランティアが自主的、主体的に活動できるよう引き続き支援を行ってきているところです。

これからも引き続き、創意工夫しながら財団運営に取り組み、皆さんから期待され応援いただける施設となるよう職員一同努めて参ります。

平成29年5月

公益財団法人しまね自然と環境財団

理　事　長　　**廣 澤 卓 嗣**

平成28年度 事業報告書 目次

Ⅰ.（公財）しまね自然と環境財団の概要

1　財団の目的……1
2　財団の事業……1
3　運営方針……1
4　財団の管理する施設の概要……2
5　組　織……4

Ⅱ. 島根県立三瓶自然館及び附属施設運営事業（三瓶自然館等運営事業）

1　運営状況……6
(1) 三瓶自然館
①常設展示
②企画展
③その他の展示
④ビジュアルドーム
⑤各種イベント
⑥各種行事
⑦新聞への寄稿
⑧自然学講座
⑨天体観察会
⑩自然観察会
⑪環境教育・環境学習事業
⑫博物館ボランティアの活動
(2) 三瓶小豆原埋没林公園
(3) 施設PR事業
(4) 施設の維持管理

2　調査研究・資料収集　整理事業 ……28
(1) 事業概要
(2) 調査研究
(3) 資料の収集・整理

3　地域との連携、その他の事業……33
(1) 地域との連携
(2) 他施設との連携
(3) 行政等への協力
(4) 各種研修の受け入れ

Ⅲ. 地球環境の保全に関する活動支援事業（環境保全活動支援事業）

1　事業概要 ……36
2　地球温暖化対策 ……36
3　県民の3R推進事業……47
4　環境保全活動支援 ……49

Ⅳ. 北の原キャンプ場管理運営事業

1　利用促進業務 ……53
2　管理体制 ……54
3　施設維持管理 ……54
4　利用状況及び収支状況 ……54
5　自主事業 ……55
6　その他の事業 ……55
(1) 地域と連携した観光振興に関する事業
(2) 大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業
(3) 三瓶広域ツーリズム振興協議会への参画

Ⅴ. 施設利用者への利便提供事業

1　物販事業……56
2　貸出事業……56

Ⅵ. 各種資料

1　数値目標を掲げた運営 ……57
2　利用者数の推移 ……61
3　沿革……62
4　関連記事……64
5　資料……68
6　評議員会・理事会等 ……74

Ⅰ．(公財)しまね自然と環境財団の概要

１．財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い､広く県民に対して環境の保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

２．財団の事業

(1)自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
(2)自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
(3)環境教育及び環境学習に関する事業
(4)地球環境の保全に関する活動支援事業
(5)自然資源の利用促進等を通した地域振興事業
(6)その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

３．運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮させるとともに、法人として｢自然に関するシンクタンク｣的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

・企画展、観察会や各種イベントを充実し、自然に親しむ場、自然を学ぶ場を提供する。
・学校、大学や研究機関、地域とのつながりを大切にした運営をする。
・調査研究、博物館資料の収集保管に力を入れ、バックボーンがしっかりした博物館を目指す。
・SNSやマスメディアを利用した情報発信、PRを行い、もっと身近な三瓶自然館を目指す。
・心のこもったおもてなしと、不測の事態に備えた点検、訓練を実施し、安心して何度でも利用したくなる施設を目指す。
・入館者及び入館料収入の確保を目指すとともに、経費の節減に努め、安定した経営を目指す。

また、松江事務所を中心に展開する県民への環境保全活動支援では、事務所の愛称を｢しまねエコライフサポートセンター(エコサポしまね)｣とし、地球温暖化をはじめとする地球環境の課題の啓発を図り、各キャンペーンや環境保全活動への助成を行っている。事業実施にあたっては行政機関や三瓶自然館等の施設との連携を密にして、効率的で効果的な事業展開に努める。

４．財団の管理する施設の概要

（１）島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。

所　在　地	島根県大田市三瓶町多根1121番8
開設年月日	平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館)
面　　積	敷地面積　14,822㎡
	建築面積総計　4,442㎡
	建物延べ床面積総計　8,513㎡
施 設 内 容	本館 常設展示(島根県と三瓶の自然)、ビジュアルドーム、受付、売店
	別館 レクチャールーム、企画展示室
	新館 常設展示(小豆原埋没林、環日本海の自然、フィールドガイド)
	天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など
附 属 施 設	三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原　片道4.5km)
	北の原フィールドセンター、自然観察入門広場、北の原芝生多目的広場

（２）三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、約4千年前の三瓶山の噴火で埋もれた埋没林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小二つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

所　在　地	島根県大田市三瓶町多根ロ58番2
開設年月日	平成15年5月2日
面　　積	敷地面積　約10,000㎡
	延面積
	・管理棟　142.56㎡
	・大展示棟　1,142.59㎡
	・小展示棟　97.09㎡
	(延面積合計)　1,382.24㎡
施 設 内 容	管理棟　受付、売店、事務室、機械室
	大展示棟　展示室、機械室
	小展示棟　展示室

（３）三瓶山北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の広大な自然の中にある県立キャンプ場として、昭和44年に開場した。この47年間の利用者は90万人を超え、多くの県民の憩いの場としての役割を果たしてきた。当財団は、平成4年度からは県からの受託、17年度からは指定管理者として管理運営を行ってきた。平成22年度からは大田市の施設となったが、市の指定管理者として、引き続き管理運営を行っている。

家族向けのオートキャンプサイト、山小屋風のケビンに加え、団体に対応した集団キャンプサイトにキャンプファイヤー場もあり、学校団体や企業の職員研修等にも利用されている。炊事棟やシャワー棟、ランドリー施設も整備されている。

また平成24年度から大田市により、犬と泊まれるバンガローとドッグランが設置されており、犬と泊まれて遊べる環境も整備されている。

所　在　地	島根県大田市三瓶町多根1121番1	
開　設　年	昭和44年	
面　　積	敷地面積	180,891㎡
施設内容	セントラルロッジ	受付、事務室、多目的ホール、売店など
	オートキャンプサイト	73区画
	一般キャンプサイト	フリーサイト(テント200張可)
	ケビン	大型ケビン3棟　小型ケビン10棟
	バンガロー	5棟
	ドッグラン	2区画、休憩所2棟
	その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟　など)	

５．組　織

□評議員・役員名簿

＜評 議 員＞

議　　長	平塚貴彦
評 議 員	齋藤晃大
	鈴垣英晃
	高瀬寿子
	高橋泰子
	宮永龍一
	蓮花正晴
	(役毎にアイウエオ順)

＜役　員＞

理 事 長	廣澤卓嗣
常務理事	酒井浩純
理　　事	石田弘行
	末成弘明
	栂　恒雄
監　　事	大谷正幸
	中原良輝
	(役毎にアイウエオ順)

□三瓶自然館運営委員名簿

委 員 長	島田一嗣
委　　員	秋吉英雄
	今井　靖
	梅田秀樹(H28.5.31～)
	皆田修司
	瀬川　涼(H28.9.8～)
	中村佐恵子(～H28.5.31)
	初見眞知子
	藤井伸治
委　　員	藤井好文
	松井律子
	松浦光芳
	松本一郎
	丸山　永(～H28.9.8)
	宮﨑康之
	山口啓子

□事務局(役員１人、総合職員16人、専門職員9人、一般職員16人、臨時職員16人 計58人)

(平成28年7月1日現在、兼務除く)

事務局長・館長 ― 事務局次長・副館長・所長

- 総　務　課 → 管理的業務全般を所掌
  - ・フィールド管理
- 企画情報課 → 広報、営業及び情報発信に係る業務を所掌
  - ・ミュージアムショップ
  - ・三瓶小豆原埋没林公園
  - ・三瓶山北の原キャンプ場
- 学　芸　課 → 地学系及び生物系に係る業務を所掌
  - ・天文事業室
  - ・おもてなし推進室(アテンダントグループ)
- 環境事業課(松江事務所) → 環境保全活動支援及び地球環境問題に係る業務を所掌
  - ・地球温暖化防止活動推進センター
  - ・しまねエコライフサポートセンター

□プロジェクトチーム（平成28年7月1日現在）

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。

事務局長・館長
- H28夏期企画展チーム(4名)
- 学校団体利用推進チーム(4名)
- 地域連携推進チーム(4名)
- スペースデザインチーム(4名)
- キッズ＆飲食サービスチーム(4名)
- 常設展示更新検討チーム(3名)

□職員名簿（平成28年7月1日現在） 58名(兼務除く。正職員42、臨時職員16名)

＜統　括＞

事務局長･館長	酒井　浩純
副　館　長	龍　善暢
事務局次長	帯刀　公平

＜総 務 課＞11名

課　長	石田　浩二
企画幹	米浦　道子
主　事	田原いづみ
〃	中山はるか
〃	山本健太郎

(フィールド管理)

スタッフ	広岡　朗
〃	中田政春
〃	大谷文子
〃	三輪洋二
〃	大上雅史
〃	石田信助

＜企画情報課＞19名　(うち兼務2)

課長(取扱)	帯刀公平
課長代理	中村唯史
主任企画員	熊谷正浩
企画員	竹下瑠美
〃	石田弓子
スタッフ	安原豊子

(三瓶小豆原埋没林公園)

チーフ(取扱)	中村唯史
スタッフ	大野志津香
スタッフ	太田和良
〃	福田哲夫
〃	夕永好彦

(北の原キャンプ場)

チーフ	桐原信夫
スタッフ	藤原昌己
〃	山根　瞬
〃	岡田　桂
〃(育休)	西本真理子
〃	小原美保子
〃	小丸政美
〃	岩倉敏範

＜学芸課＞23名　(うち兼務2)

課長(取扱)	龍　善暢
課長代理	井上雅仁 (植物)
地質担当(兼務)	中村唯史 (地質)
企画幹	星野由美子 (鳥類)
企画幹	皆木宏明 (昆虫)
研究員	安藤誠也 (ほ乳類)
研究員	松村美雪 (植物)
研究員	遠藤大介 (地質)
学芸スタッフ	三島秀夫
〃	南家　明
〃	松原勝志

(天文事業室)

室　長	竹内　幹藏 (天文)
研究員	太田　哲朗 (天文)
研究員	矢田　猛士 (天文)

(おもてなし推進室)

室　長	大草　秀美
チーフ･ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ	林　めぐ美
サブチーフ･ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ	細田須美子
アテンダント	槇原　舞
〃	小田佐由香
〃	和田ひみこ
〃	宮脇　成美
〃	大谷　朗子
〃	川本　愛祈

＜松江事務所＞6名

(環境事業課)

所　長	細田　滋
課　長	葭矢崇司
企画幹	野崎　研
企画員	伊藤玲子
〃	門脇恵美
〃	石原香織

※網掛け：臨時職員

Ⅱ.三瓶自然館及び附属施設の運営事業

１．運営状況

（１）三瓶自然館

大きな事業としては、夏に企画展「ジュラシック・シー～海の恐竜とぐるぐるアンモナイト～」を開催し、関連イベントを含めて多くの入館者を得た。そのほか、年間を通して季節に応じた各種事業を企画・開催し、県民が三瓶の自然にふれる場の創出に努めた。

①常設展示

県立の自然系博物館であり、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、本館では、島根県および三瓶山の自然について、展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。また新館では、山麓で発見された三瓶小豆原埋没林、島根県を取り巻く環日本海の生いたち、フィールドガイド、天文展示を行っている。

企画展開催中には、本館2Fの常設展示室を企画展会場に変更し、首長竜を展示するなど、館全体で企画展を楽しめるように工夫した。また、季節に応じての展示物の入れ替え、野外でみられる草花の展示、お正月にあわせた酉年展示など、来館者からの要望に応じた解説などを行い、展示への興味関心を深めるよう工夫した。

②企画展

a　春期企画展「サヒメルは宝箱～学芸員のいちおしコレクション展」

期　間：3月19日(土)～5月22日(日)

入場者：18,563人

地域の研究者や収集家から寄贈や提供を受けた三瓶自然館の収蔵標本を中心に、学芸員いちおしのコレクションを公開した。寄贈者や提供者の思いや業績をあわせて紹介することで、地域の自然系博物館における収集・保存活動、そして博物館とさまざまな人々とのつながりを知ってもらう契機とした。総展示数：標本 約2,000点

◆主な展示

□島根一の植物コレクション「杣村植物標本」

杣村喜則氏により収集された総点数40,000点におよぶ植物標本。島根県内の植物相を知るための貴重な資料となっている。

□戦前の貴重な鳥標本「伊達鳥類コレクション」

伊達源一郎氏により戦前に収集された鳥類標本。現在では入手することが難しい希少な種類や、研究用資料として多くの種類の標本や同じ種類の標本がいくつも集められている。

□火山としての三瓶山の歴史解明「松井三瓶火山コレクション」

松井整司氏により収集された三瓶火山の火山灰を中心とした膨大なコレクションは、三瓶火山の過去の噴火活動を知る上で非常に重要な資料となっている。

□島根の代表的な貝化石「坂之上貝化石標本」

坂之上一氏により収集された島根県内の貝化石を中心としたコレクション。島根県東部に分布する布志名層から産出する貝化石については、ほとんどの種類が網羅されている。

□島根県のガ類相の解明に貢献「林昆虫標本」

林謙治郎氏により収集された三瓶山を中心とする昆虫標本。総点数5,000点以上。なかでも3年間、毎晩、外灯で採取を続けたガ類の標本は、三瓶山だけでなく島根県のガ類相の解明に大きく貢献した。

□世界のチョウ標本「森山チョウ類標本」

森山堯氏により収集された日本を含む世界中の総点数1万点以上に及ぶチョウ類標本。

□西中国山地のチョウ標本「中村チョウ類標本」

中村泰士氏により西中国山地を中心に1970年から80年代に収集されたチョウ類標本。

□沖縄のチョウ標本「永田チョウ類標本」

永田征氏により1974年から75年にかけて沖縄本島や石垣島で収集されたチョウ類標本。

◆関連イベント

□ギャラリートーク

期　日：企画展期間中(3月19日～5月22日)の日曜日と祝日(合計：15回)

参加者：100人

内　容：担当分野のいちおし展示について、研究員が見どころを紹介した。

◆同時開催

□日本星景写真協会巡回展(59作品)、星景写真公募展(36作品)

日本星景写真協会の第3回巡回展と当館で募集した星景写真を展示した。星空と地上風景をあわせて写した星景写真を展示することにより、身の回りの環境に関心を深めてもらえることを目的とし、展示を見て「きれいな夜空が見たい」「星の写真が撮りたい」と感じてもらえる内容とした。

b　夏期特別企画展　「ジュラシック･シー～海の恐竜とぐるぐるアンモナイト～」

期　間：7月16日(土)～9月25日(日)

入場者：63,007 人

恐竜の時代といわれる中生代の海に君臨した「海の恐竜(海棲爬虫類)」と大繁栄したアンモナイトを紹介する企画展。大型の首長竜骨格や、多数のアンモナイト標本(宝石化したアンモライト、島根産のアンモナイトなど)を展示した。

◆主な展示

□本館2階展示室「首長竜の部屋」

導入部で大型スクリーンを使い、ジュラ紀の海(ジュラシック・シー)をCG映像で表現した。展示室の中央では、恐竜時代の「海の王者」である魚竜のイクチオサウルス、首長竜のヒドロテロサウルス、モササウルスのプラテカルプスそれぞれの大型標本を配し、その周辺に代表的な貝類等を展示して中生代の海を紹介した。出口付近で首長竜とアンモナイトの関わりを示し、次の展示室に繋げた。

□企画展示室「ぐるぐるアンモナイトの部屋」

アンモナイトの生態や大繁栄した理由を紹介するため、アンモナイトの進化･成長･多様性を示す様々な化石標本や、生体復元模型、内部構造模型等を展示した。あわせて、螺旋についてのハンズオン等を用い、アンモナイトの形の合理性を解説した。宝石化した標本は人気があった。また、島根県産のアンモナイトを多数展示し、県内に中生代の地層があることを紹介した。

□新館4階展示室「キッズコーナー」

「はっくつたいけんコーナー」、「アンモナイト釣り堀」、「アンモナイトのペンダントを作ろう」、「記念撮影コーナー」等体験型のコーナーを設置し、子どもたちの関心を集めた。

□ホール･回廊など

ホールに中生代の海の代表的な大型魚竜オフタルモサウルスの化石標本を展示した。回廊には、福岡幸一氏の版画「北海道のアンモナイト」、香川元太郎氏のイラスト「進化の迷路」、アンモナイトに関するクイズやゲームを展示した。参加型企画としては、アンモナイトのように渦巻き形のものを来館者に描いてもらい掲示した。大型アンモナイト化石を各コーナーの案内役に見立て、全館に配置した。

※展示協力：国立科学博物館、兵庫県立人と自然の博物館、いわき市石炭化石館、奇石博物館、豊橋市自然史博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、島根大学ミュージアム、奥出雲多根自然博物館、美祢市歴史民俗資料館・化石館、北九州市立自然史・歴史博物館、吉賀町教育委員会、株式会社カナダビジネスサービス、福岡幸一、川崎悟司

◆関連イベント

□プレイベント･アンモナイトのレプリカ作り

期　日：6月26日（日） 13:00～15:00
場　所：レクチャールーム
参加者：33名
講　師：中田健太郎（いわき市アンモナイトセンター）
　　菅田康彦（奥出雲多根自然博物館）
内　容：アンモナイトについてのレクチャーの後、石膏を使ったアンモナイトのレプリカを作った。

□ＶＲ体験

期　日：7月16日（土）～7月31日（日） 10:00～12:00、13:30～16:00
場　所：体験コーナー（新館4階）
参加者：1,166名
内　容：専用ヘッドマウントディスプレイを装着して、中生代の海中をバーチャル体験した。

□ぐるぐるたんけんシート

期　日：7月17日（日）、8月21日（日）、9月18日（日）（きっずサンデー） の終日
場　所：全館（本館・新館入口にシートを置く）
参加者：430名
内　容：館内を回って各所に設けてあるシートに書かれたクイズに挑むイベント。

□アンモナイトのレプリカ作り

期　日：7月24日(日)、8月28日(日)、9月25日(日) 13:00～14:30
場　所：本館1階図書コーナー
参加者：86名
内　容：プラスチック製粘土を使ったレプリカ作りを行った。

□うずまきのヒミツ

期　日：8月7日(日) 13:00～14:30
場　所：レクチャールーム
参加者：35名
講　師：宇津巻竜夫(サイエンスコミュニケータ)
内　容：うずまきについての体験イベント。アンモナイト折り紙を通してうずまきについて探った。

□化石ハンター

期　日：9月1日(木)～25日(日)
　　平日13:30～15:00　土、日、祝10:00～12:00、13:30～16:00
場　所：フィールドセンター1階
参加者：1,988名
内　容：本物のアンモナイトや化石を砂利の中から発掘して見つける体験型イベント。見つけたアンモナイトを1個持ち帰ることもでき、親子で一生懸命探す姿が多く見られ、とても人気のあるイベントとなった。

□化石発掘体験

期　日：9月11日(日) 10:30～12:00、13:30～15:00
場　所：新館屋外
参加者：42名
内　容：研究員の指導の下、化石を含む岩石からタガネを使って化石を取り出す、本格的な発掘体験を行った。

□クイズ アンモナイトモラワナイト

期　日：9月 1日(木)～15日(木)実施、
　　9月22日(日)授賞式
場　所：全館
参加者：77名
内　容：全館を使って行う少し難易度の高いクイズ。リピーター限定企画で、8月までの入館チケットを提示した来館者に回答してもらった。賞品はアンモナイトほか。

□けんけんばんばん 音ものがたりコンサート

期　日：9月22日(日)
　　11:00～12:00、14:00～15:00
場　所：本館ホール
参加者：180名
内　容：地元の演奏者2名による企画展をイメージした子ども向けエレクトーン演奏会。

c　冬期企画展「第３７回ＳＳＰ展　自然を楽しむ科学の眼」

期　間：12月23日（金）～2月12日（日）

入場者：1,781人

日本自然科学写真協会（SSP）会員による巡回展・第37回SSP展を招致し、出展作から選抜した100点を展示した。三瓶自然館での展示は今回で7回目。昆虫、動物、鳥類、植物などの生物、また山岳や天体など多岐にわたる分野からの科学写真が一堂に会し、年末年始を中心とした来館者の目を楽しませた。

③その他の展示

□しまねの農村景観フォトコンテスト写真展

期　間：8月17日（水）～8月30日（火）

入場者：11,816人（期間中入館者数）

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：島根県農村整備課の主催で、「第19回しまねの農村景観フォトコンテスト」の入賞作品約40点を展示した。この写真展は、県内数カ所で巡回して行われており、三瓶自然館での開催は今回が初めてである。

□アクティブレンジャー写真展

期　間：10月19日（水）～11月23日（水）

入場者：9,137人（期間中入館者数）

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：環境省中国四国地方環境事務所が実施する写真展。中国地方、四国地方の国立公園において、環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動風景の写真約30点を展示した。

□木のおもちゃ展

期　間：11月3日（木）～11月27日（日）

入場者：6,406人（期間中入館者数）

場　所：本館1階ロビー及び企画展示室

内　容：木のおもちゃをとおして森林や自然に興味をもってもらうことを目的とし、様々な木のおもちゃを設置した。来館者には自由に遊んでもらい、木のぬくもりを感じてもらった。

協　力：浜田市世界こども美術館、島根県中山間地域研究センター、舟木木工所、島根県中央地域職業訓練センター

□酉年ミニ展示

期　間：12月26日（月）～平成29年1月30日（月）

入場者：376人

場　所：本館1階常設展示室

内　容：干支の酉とはニワトリであるため、近縁であるキジ目キジ科に注目して、キジやヤマドリの剥製などのほか、鶏冠石や孔雀石、クジャクガなど、さまざまな関連の標本や写真などを紹介する展示を行った。

④ビジュアルドーム

a　プラネタリウムの投影

◆プラネタリウム一般投影

その日に見られる星空を、折々の天文の話題を交えて解説員が紹介するプラネタリウム生解説投影(星座案内)と、オリジナルで制作したプログラム番組(テーマ番組)を通年で投影した。

□星座案内

期　間：通年

観覧者：11,244人

内　容：その日見られる星空から、月や惑星、星座などを紹介し、話題となっている天文現象の話などを織り交ぜて、解説員による親しみやすい生解説投影を行った。1回約20分の投影だが、土曜日には45分の拡大投影も実施。天文職員がテーマを設定し、月ごとに話題を変えながら深く掘り下げた解説を行った。

□テーマ番組

・470億光年の、その先へ－宇宙のはてをさがす旅－

期　間：4月1日(金)～平成29年3月5日(日)

観覧者：10,028人

内　容：「宇宙の果てはどこにあって、どうなっているのか」という誰もが抱く疑問について、現代の科学が解明してきた宇宙の構造を分かりやすく表現しながら、主人公の二人が宇宙を旅するという物語風に紹介した。

・秘密結社　鷹の爪　THE PLANETARIUM～ブラブラ！ブラックホールのナゾ～

期　間：5月23日(月)～平成29年3月31日(金)

観覧者：1,263人

内　容：人気アニメ「秘密結社　鷹の爪」のキャラクターを使った番組。島根県出身の登場人物「吉田くん」を用いて島根を取り上げつつ、多くの人が興味を持つブラックホールを科学的な主題として、最新の宇宙論をおもしろく、わかりやすく伝えた。

・氷の火山～太陽系の活火山～[平成28年度制作新番組]

期　間：1月2日(月)～1月3日(火)、3月11日(土)～3月31日(金)

観覧者：657人

内　容：活火山である三瓶山を出発点とし、近年注目を集める太陽系の衛星に見つかった氷火山(アイスボルケーノ)をテーマに、発見の経緯やその存在が秘める地球外生命の可能性について最新の研究成果をもとに紹介した。

・その他、オリジナルライブラリ作品を投影

期　間：随時

観覧者：306人

□その他

・きっずプラネタリウム

期　間：毎月の第3日曜日

観覧者：948人

内　容：毎月第3日曜日に実施している「サヒメルきっずサンデー」関連イベントとして、幼児向けのプラネタリウムを投影した。親子で星空に親しむきっかけ作りを目的として、月や星のこと、星座の物語などを中心に、一緒になって楽しめる内容とした。

・字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」

期　間：9月15日（木）～9月21日（水）、12月3日（土）～12月4日（日）

観覧者：238人

内　容：聞こえに不安がある人や、聴覚障がいを持つ人を主対象に、プラネタリウム番組に字幕を付けて解説する番組を投影した。馴染みの深い天体である月をテーマに、星空への親しみを深めてもらう内容とした。

◆プラネタリウム学習投影

実施数：21回、　976人

「4年生向け投影」、「6年生向け投影」、「星座早見の使い方」および「幼児向け投影」を学校団体の希望に合わせて行った。

b　大型ドーム映像の上映

平成3年の開館以来、24年半にわたり大型ドーム映像を上映した70㎜フィルム映写機を、平成28年春に全天デジタルプロジェクターシステムに更新。4月21日にリニューアルオープンした。

◆リニューアル特別番組

・「オーロラ　夜空を彩る光のダンス」

期　間：4月21日（木）～3月5日（日）

観覧者：5,449人

内　容：自然が作り出す幻想的なオーロラ。なぜ限られた地域でしか見ることができないのか。美しい色合いはどのようにして生まれるのか。オーロラの秘密とドーム空間を乱舞する光のダンスが存分に楽しめる特別番組を、リニューアル記念として上映した。

◆夏期特別番組

・「秘密結社鷹の爪　ジュラジュラ！ジュラシックトラベル」

期　間：7月16日（土）～9月25日（日）

観覧者：26,623人

内　容：おなじみの秘密結社鷹の爪メンバーがタイムトラベル。羽毛布団を作るため、羽毛恐竜を探しにいろいろな時代を飛び回る。最新の恐竜研究の成果をもとに楽しみながら学べる恐竜番組を、夏期企画展に連動して上映した。

◆一般番組

・「さんべ自然紀行」「三瓶冬紀行」「煌めきのなかで」「島根 人と自然の原風景」

期　間：さんべ自然紀行=通年、島根 人と自然の原風景=4、1月
三瓶冬紀行、煌めきのなかで=10～3月

観覧者：3,181人

内　容：三瓶自然館のオリジナル作品を、映写装置の更新に伴いフィルムからデジタルリマスター。四季折々の三瓶山の表情と、そこに息づく生き物たちを追った「さんべ自然紀行」「三瓶冬紀行」、島根県各地の自然と人との関わりを描いた「煌めきのなかで」「島根 人と自然の原風景」の4作品を、より鮮やかに再現して上映した。

⑤各種イベント

□春の男三瓶山に登ろう

期　日：5月8日（日）8:30～14:30

参加者：30人

内　容：春の草花や鳥のさえずりなどを観察しながら、男三瓶山への観察登山を行った。参加者は、インタープリターによる自然解説や新緑の中での登山を楽しむとともに、自然への興味を深めた様子であった。

□バードウオッチング講座

期　日：5月15日（日）

参加者：20名

内　容：身近な野鳥基本10種類の鳴き声を聞き分けることを目標として、実際に野外で鳥の声に耳を傾けた。鳴き声を聞き取りやすいよう4～5名の班分けを行い、各班にインタープリターを配置して充実度を高くした。班によっては、ゴジュウカラの巣立ちなどの珍しいシーンを観察することができた。

□初夏のノルディックウォーク

期　日：5月22日（日）　9：30～15：30

参加者：16人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、北の原から東の原まで続く新緑のヘルシートレイリングコース往復を歩き、途中、研究員による草花などの観察会を行った。今回は三瓶ヘルスツーリズムとの協力事業として実施した。

□活火山三瓶山･火山講演会

期　日：5月28日（土）

参加者：45名

内　容：松江地方気象台が主催し、島根県防災危機管理課、大田市が共催して当館が協力してレクチャールームを会場に開催した。活火山三瓶山の現状と観測体制、災害予測などについて､広島地方気象台の林正典・地震津波火山防災情報調整官と当館中村が講演した。

□アンモナイトのレプリカ作り(再掲)

期　日：6月26日（日）　13:00～14:30

参加者：34人

内　容：夏期特別企画展の事前広報を兼ねたプレイベントとして、アンモナイトに関する子ども向けのレクチャーと石膏を使ったアンモナイトのレプリカ作りを行った。2名の外部講師を招いて実施した。

□夏の夜の昆虫観察

期　日：7月25日（土）19:00～21:00

参加者：43人

内　容：夜の三瓶山で見られる昆虫の観察。夜の森を歩いて虫を探したり、ライトトラップやエサで虫を集め､アブラゼミの羽化やクワガタムシの仲間などを観察した。

□ススキの迷路

期　間：10月1日(土)～11月3日(木)

内　容：秋の北の原に繁茂するススキを利用した迷路コース。本年度では、難易度別に初級、上級の2コースを整備し、平日では幼稚園や保育園の遠足等、休日は家族連れの利用を得ることができた。

□天文教室・天体写真撮影会「月を撮る 月で撮る①」

期　日：10月10日(月) 19:00～21:00

参加者：18人

内　容：曇り空ではあったが、長時間露出で夜の景色を撮ることで、天体撮影の練習をした。

□さんべ祭

期　間：10月15日(土)～10月16日(日)

参加者：2,250人(2日間)

内　容：本館ロビーでの科学ワークショップ等の小ブース出展、インタープリターによる工作体験を2日間実施したほか、北の原キャンプ場では「炭火焼きフェスタ」と題し、肉などの食材を販売し用意した炭火で焼いて食べるイベントを実施した。両日とも天候に恵まれ、多くの来館者で賑わった。

□秋のノルディックウォーク

期　日：11月3日(木・祝)　9：30～15：30

参加者：23人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、北の原から東の原まで続くヘルシートレイリングコース往復9kmを紅葉を楽しみながら歩いた。途中、研究員による草花などの観察会を行った。また、歩く速度からグループを二つに分けて実施した。

□ゆっくり歩く紅葉の室ノ内

期　日：11月6日(日) 9:30～15:00

参加者：25人

内　容：紅葉の室ノ内を散策しながら、自然への興味関心や国立公園の特別保護地区について理解を深めてもらうための軽登山イベントを行った。当日は悪天候のため、コースを短くして実施した。

□さんべの森たんけんたい

期　日：11月13日(日)

参加者：18人

内　容：北の原キャンプ場を主会場に実施。多目的ホールで、木片を使った工作「森のかけらのお守り作り」を行った後、キャンプ場内を散策し、どんぐりや落ち葉、キノコなどを探した。散策後、第1ファイヤー場脇に用意した落ち葉のプールで遊び、三瓶山の秋を体感した。

□全国一斉 熟睡プラ寝たリウム

期　日：11月23日(月)　13:30～14:15

参加者：25人

内　容：勤労感謝の日に、全国31館で一斉に開催した寝てしまってもかまわないプラネタリウム。心地よい音楽とプラネタリウムの満天の星で、熟睡してしまうほどリラックスできる時間をお客様に提供した。星空解説は寝ているお客様の快眠を邪魔しないよう、字幕で投影した。また、昨年同様いびき席を用意したり、ドーム入口では、香りでもリラックスしてもらおうとアロマディフューザーも設置するなどの工夫を行った。

□熟睡プラ寝たリウム

期　日：11月27日(日)、12月毎週日曜日　13:30～14:15　計5回

参加者：99人

内　容：全国一斉熟睡プラ寝たリウムと同内容のものを、当館独自で実施した。

□お正月イベント

期　日：1月2日(月)～1月3日(火)

参加者：376人

内　容：お正月に臨時開館して開催する恒例のイベント。郷土色豊かな島根県4地域の雑煮のふるまい、書き初め、ビンゴ大会、干支の酉に関する特別展示などを実施した。また、プラネタリウムでは鳥の星座にまつわる星空案内や新番組「氷の火山」を先行投影した。

□北の原ファンタジー「星の世界で大冒険！～空からやってきた星の王子様～」

期　日：2月19日(日) 11:00～、14:00～(各60分)

参加者：160人(11:00)、170人(14:00) 合計330人

内　容：アテンダントによる手作りの劇と、ゲームで楽しむプラネタリウムイベント。今回のテーマは「星」。夜空に輝く星々には色々な種類があり、そこにある地球とは違う世界を伝えることで、少しでも星に興味を持って、空を眺めてもらうことを目的とした。また、毎月第3日曜日に開催されるきっずサンデーにあわせ、テンピータイムやデジタル紙芝居も実施した。ダンボール迷路、バケツたいこなどのイベントも開催した。

□天文教室･天体写真撮影会「月を撮る 月で撮る②」

期　日：3月5日(日) 19:00～21:00

参加者：12人

内　容：三瓶自然館の望遠鏡にカメラを押し当てる方法での月の撮影と、月の明かりを利用した星景写真(星空と地上の景色が同時に写った写真)の撮影を行った。

□プラネタリウム「星空とともに」

期　日：平成29年3月11日(土)～3月12日(日)

観覧者：74名

内　容：東日本大震災の被災者から寄せられた星と震災にまつわるエピソードをもとに、2012年仙台市天文台が製作したプラネタリウム番組。震災の日に合わせ、各地のプラネタリウム館で投影された。当館でも毎年投影しているが、今年はマスコミにも取り上げられた。

□親子で作ろう工作教室

期　日：13:00～15:00

5/3（木）　ミニこいのぼり作り(20人)
5/4（金）　牛乳パックの星座プラネタリウム(34人)
5/5（土）　まがたま作り(39人)
8/11(木)　木の実の工作(36人)
8/12(金)　竹の工作(40人)
8/13(土)　フィンガーペイント(27人)
12/11(日)　クリスマスリース作り(15人)　　( )内は参加人数。

内　容：自然や環境をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。

□サヒメル科学探険隊

期　日：5/29(日)、6/12(日)、8/7(日)、9/4(日)、10/30(日)
年5回10:00～16:00

内　容：理科好きな小学生4～6年生を対象に、自然科学に関する学習や観察を通じて、自然科学への関心を引き出す活動。年度始めに探険隊に登録し、年間を通じて5回の活動を行った。子どもたちの積極的な姿が随所に見え、深まりのある活動となった。
(参加者10名)
第1回　サヒメルオリエンテーリング/活動報告をかこう
第2回　土の中の生きものをさがそう
第3回　うずまきのひみつ/企画展探検
第4回　長時間飛ぶ紙ヒコーキのふしぎ
第5回　火山を知ろう/新聞作成、まとめと発表会

□サヒメルきっずサンデー

期　日：毎月第3日曜日

内　容：「しまね家庭の日」に連動した、幼児に三瓶自然館を楽しんでもらうための一日。「デジタルかみしばい」、「きっずプラネタリウム」、「テンピー・タイム」のほか、新たに水そう展示の生きものを紹介する「いきものはともだち」、定期イベントの「天文ミニガイド」も幼児向けのものを実施。また、館内スタンプラリーも設置した。

⑥各種行事

□ビジュアルドーム改装記念式典

期　日：4月21日（木）　10:00～12:00

参加者：約40人

内　容：大型ドーム映像映写機のデジタル化とビジュアルドームの改修を記念した式典。来賓と北三瓶小学校の全児童を招待し、ビジュアルドームで開催した。テープカットの後、ドローンで撮影して館で編集した三瓶山の映像を投影し、デジタル化によって映像上映の自由度が向上したことを紹介した。式典後、「三瓶自然紀行」の上映と春期企画展の見学会を行った。

□開館25周年記念式典

期　日：7月15日(金)　10:00～11:30

参加者：約100人

内　容：平成3年10月の開館から25年目を迎えたことを記念し、夏期企画展開幕前日に記念式典を開催した。会場はビジュアルドーム。式典では、廣澤理事長と大田市の竹越市長による挨拶の後、「さんべ夢未来サミット」と題して、子どもが主役のシンポジウムを行った。

夢未来サミットは、北三瓶小、池田小、志学小の三瓶地区3小学校の全児童が参加し、各校から1～2名と大田市の大國教育長が代表として登壇した。三瓶山地域への思いや将来への夢をテーマにそれぞれ発表し、客席側の児童らからも発言してもらった。

式典の最後に、大田市内の小学校1年生全児童に贈る「おおだっ子特別パスポート」を代表として登壇の児童と教育長に贈呈し、大田市内との学校と連携を深め、博物館として地域の教育への貢献を進めたいというパスポートの趣旨を紹介した。

□科学の祭典2016科学の縁結び祭りへの参加

期　間：7月30日(土)、31日(日)

会　場：出雲科学館(出雲市今市町1900-2)

参加者：385人

内　容：プラスチック粘土「おゆまる」を使い、アンモナイト化石のレプリカを作成した。また、本物の化石を展示して夏期特別企画展のPR活動も行った。

□自然館入館者300万人達成記念

期　日：11月5日(土)　10:00～11:30

内　容：鳥取市の家族が、開館から300万人目の入館者となったのを記念し、島根県の藤原副知事より花束や年間パスポートなどを贈呈した。

⑦新聞への寄稿

読売新聞「サヒメル研究日誌」(計12回)・島根日日新聞「学芸員日記」(計25回)・山陰中央新報「さんいん きらめく星」等(計31回)への原稿執筆を通して、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。(掲載記事の一覧は「Ⅵ.各種資料 5. 資料(p68～)」参照)

⑧自然学講座

□バードウオッチング講座

詳細はp13に掲載

□活火山三瓶山･火山講演会

詳細はp13に掲載

□教員のための博物館の日

期　日：８月17日(水)　9:30～16:30

参加者：24人

内　容：国立科学博物館と共催で開催。学校の博物館利用を促進することが目的で、教員に博物館の様々な展示やプログラムを知ってもらうための事業。今年度は、島根大学より講師を招いてのワークショップ、教員からの授業事例の紹介、島根県立しまね海洋館と島根県立宍道湖自然館ゴビウスが実施している学校向けプログラムの実演などを行った。

ワークショップ		講　　師
1	アクアスでの学校向けプログラム紹介 「理科だけじゃない！海の生き物のおはなし」	山口慶子ほか2名 (しまね海洋館アクアス 学習交流係)
2	ゴビウスでの学校向けプログラム紹介 「地域の川の生きもの調べ、お手伝いします！」	中野浩史(宍道湖自然館ゴビウス)
3-A	プラネタリムを動かしてみよう	当館職員
3-B	企画展＆バックヤードツアー	〃
4	アクティブラーニングに活きる！ 山･川･海のめぐみ	髙須佳奈 (島根大学 地域未来戦略センター)
ポスター発表による事例紹介 ◎ラジウム鉱泉で放射線学習 ◎ペットボトルロケットで何を学ぶ？ ◎貸出教材で授業実践！ ◎キャラバンカーがやってきた ◎レプリカ作りで大地の作り学習		野村啓介(大田市立第三中学校) 林知洋(大田市立高山小学校) 土肥静枝(美郷町立大和中学校) 向原将平(浜田市立三隅小学校) 当館職員

※本事業は第11回科学教育の普及・啓発助成事業の支援を受けて実施した。

⑨天体観察会

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60ｃｍ大型反射望遠鏡を活用し、定期･予約観察会のほか、天文現象などにあわせた様々なテーマの観察会を実施した。

合計参加者数：8,433人

a　定期天体観察会

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	222	242	116	468	578	284	175	193	109	179	186	58	2,810

開催日：毎週土曜日(1回45分)

開始時刻：(4～8月)20:00～、21:00～、(9、10、11、3月)19:00～、20:00～、(12～2月)19:00～

b　予約天体観察会

当館の天体観察施設で行う学校団体･一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館を除く日に予約により実施している。曇天･雨天時には希望に応じ、プラネタリウムの投影を行う。予約団体の多くは、国立三瓶青少年交流の家において宿泊研修を行う学校団体であった。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 5.資料(p70～)」参照)

実施数：81団体　4,684人

c　特別天体観察会

□ゴールデンウィーク天体観察会

期　日：4月29日(金)、5月1日(日)、3日(火)、4日(水)　20:00～、21:00～

参加者：392人

内　容：木星やりょうけん座の球状星団、春の星座の星などの観察を行った。

□ペルセウス座流星群観察会

期　日：8月12日(金)　20:00～、21:00～

参加者：215人

内　容：ペルセウス座流星群のほか、天体望遠鏡で火星、土星、月の観察を行った。

□夏休み天体観察会

期　日：8月11日(木)、14日(日)、15日(月)　20:00～、21:00～

参加者：332人

内　容：夏の星座のほか、天体望遠鏡で火星、土星、月の観察を行った。

⑩自然観察会

a　定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

日　時：毎週土曜日(4～11月)　14:30～15:00

内　容：三瓶北の原草原で見頃をむかえた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会。
来館者が気軽に参加できるよう30分で実施 。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
人数	18(5)	17(4)	5(4)	33(5)	39(4)	28(4)	13(5)	12(4)	165(35)

(　)内は回数　※悪天候時は中止

b　予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会、学校団体等を中心に好評を得ている。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 5.資料(p71)」参照)

実施数：51団体　1,602人

⑪環境教育･環境学習事業

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や環境についての講演や観察会を行うなど、環境教育や環境学習に協力した。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 5.資料(p72～)」参照)

実施数：47団体　1,321人

□スーパーサイエンスハイスクール･サイエンスセミナーなどへの協力

・島根県高文連自然科学部実験観察研修会

期　日：6月10日(金)～11日(土)

生徒数：76名

内　容：研修①･･･太陽観察
研修②･･･雲の不思議
研修③･･･断層と山体崩壊の仕組みを探ろう
研修④･･･セミの抜け殻から種類を調べよう
研修⑤･･･相同器官というミステリー
研修⑥･･･葉のかたちで犯人さがし

・島根県立大田高等学校2年生 課題研究体験プログラム　ステップ2

期　日：6月15日(水)、16日(木)

生徒数：2年生 23人

内　容：研修①･･･【天文】太陽黒点の移動速度の測定

研修②･･･【鳥類】スズメの子育て～育雛行動について～ほか２題

研修③･･･【昆虫】土壌生物の豊かさと土の深さの関係

研修④･･･【放射線】池田鉱泉での調査および脱ガスによる放射線量の変化の観察

・島根県立益田高等学校スーパーサイエンスハイスクール地域巡検

日　時：7月7日(木)

生徒数：1年生 32人

内　容：天文･･･天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察

放射線･･･身近にもある放射線の調査と観察

・武庫川女子大学附属中学校スーパーサイエンスハイスクール

日　時：8月9日(火)

生徒数：1年生 35人

内　容：三瓶山周辺の自然について

・島根県立大田高等学校１年生　三瓶サイエンスセミナー

日　時：9月12日(月)～9月13日(火)

生徒数：1年生 30人

内　容：研修①･･･天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察

研修②･･･身近にもある放射線の調査と観察

研修③･･･哺乳類の観察と調査手法

研修④･･･ダンゴムシの行動を探る

・開星中学校・高等学校スーパーサイエンスハイスクール

日　時：10月12日(水)～10月13日(木)

生徒数：中学1～3年生、高校1～2年生 189人

内　容：三瓶山周辺でのフィールドワーク、天体観察

□教員のための博物館の日

詳細はP18に記載する

⑫博物館ボランティアの活動

□博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」について

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことを手助けすること(インタープリテーション)を行うために設置されたボランティアスタッフである。平成4年の研修の後、平成5年から活動を行っている。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、まだ自然観察の経験等の少ない希望者には、研修を積んだ後に委嘱している。

□登録者数

登録種別	人　数
委嘱登録者	63人
登録希望者	9人
合　計	72人

男女構成	
男　性	50人
女　性	22人
合　計	72人

□活動実績

館が実施する各種事業に協力してもらい、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は次のとおり。

・館主催イベントにおける参加者対応や企画･実施･実施補助
・外部から依頼を受けた自然観察会や定期観察会での自然解説
・毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
・新館4Ｆのハンズオンコーナーでの工作や来館者対応
・北の原の植物・鳥類調査(環境省のモニタリングサイト1000など)

登録者のうち44人が何らかの事業に参加しており、延べ525人の協力を得た。

◆平成28年度の主な協力事業

月　日	事　業　名	活動人数
5/8	春の男三瓶山に登ろう	14人
5/15	バードウオッチング講座	5人
5/22～23	家族で楽しむキャンプセミナー	3人
7/25	夏の夜の昆虫観察	11人
9/11	化石発掘体験	9人
10/15～16	さんべ祭	11人
11/6	ゆっくり歩く秋の室ノ内	11人
複数回実施事　業　等	工作コーナー	76人
	親子で作る工作教室	13人
	自然観察会	37人
	天体観察会	110人
	調査	98人
	研修･保全作業	48人
	会議･打ち合わせ等	79人

複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ

□研修

自然についての知識を深める研修、危機管理に関する研修のほか、インタープリターによる自主研修会を行った。また、現地研修として山口県を視察し、秋芳洞などで現地の自然について学ぶとともに、しものせき水族館のボランティアスタッフと情報交換を行った。

（２）三瓶小豆原埋没林公園

展示公開では、来場者に満足を提供することで関心の高まりと情報の拡散につながることを期待して、展示解説の充実を図った。新たな取り組みとしては、これまで月1回実施していた展示室床面の公開ガイド(縄文時代の大地に立とう)を11月以降は毎週日曜日に実施した。

施設管理では、大展示棟内埋没木の保存対策工事が基本設計(県事業)の段階となり、保存処理方法を検討するための保存処理試験業務と、保存対策の必要性を周知する普及啓発業務を島根県から受託して実施した。

①常設展示

大小2棟の地下展示室において、三瓶小豆原埋没林を発掘状態で現地展示している。大展示棟(縄文の森発掘保存展示棟)では、スギ3本、広葉樹4本の立木のほか、倒木を展示している。観覧者は地表下約12 mの見学デッキから見学できる。小展示棟は、三瓶自然館展示標本の根株があり、地下約13.5mの床面で間近で見学できる。

②展示解説

実施数：169グループ　4,092人

内　容：予約時に解説希望の有無を確認し、その大部分に解説を実施した。また、予約に限らず、スタッフの対応が可能な限り解説を行うことで埋没林の魅力を伝えることに務めた。その他、団体以外への解説も随時実施している。

③イベント

□縄文時代の大地に立とう

期　日：4月10日(日)、5月8日(日)、6月12日(日)、7月10日(日)、8月14日(日)、9月11日(日)、10月9日(日)、11月13日(日)、11月13日以降は毎週日曜日に実施。

参加者：各回5～10人

内　容：展示棟床面と天井部分のバックヤードを含む展示解説ツアー。所要時間は30分程度。11月13日以降の日曜日は床面のみの公開とした。床面から見る埋没樹は見学デッキよりさらに迫力があり、通常非公開の特別感と相まって参加者の満足度が高い。

□蛍カフェ

期　日：6月18日(土)

参加者：26名

内　容：株式会社necco(西の原レストハウス運営者)との共催で、芝生園地での食事とホタルの観賞を行った。18時過ぎから園地に並べたテーブルで食事をとり、空が暗くなった20時前頃から小豆原川に沿って飛ぶホタルを観賞した。

□おおだエコツアー「石になった巨木を見に行こう」

期　日：5月22日(日)

参加者：14名

内　容：本イベントは、三瓶青少年交流の家が地域と共同で実施する三瓶地域協育ネットワーク事業のひとつとして実施。3回実施し、初回の「石になった巨木を見に行こう」は、埋没林を見学後、バスで大田市久手町に移動し、国指定天然記念物の波根西の珪化木を見学した。

□おおだエコツアー「さんべの巨木めぐり」

期　日：7月18日（月）

参加者：15名

内　容：埋没林を見学後、バスで三瓶町上山の「本宮神社の大杉（県指定天然記念物）」、三瓶町池田の「定めの松（市指定天然記念物）」と「浄善寺の大イチョウ」を見学した。

□おおだエコツアー「銀山とたたらをめぐる」

期　日：11月26日（月）

参加者：11名

内　容：大田市駅発着で、午前中は大田市鳥井町の「百済たたら跡」を見学した。海岸で昼食後、午後は大田市大森町の仙ノ山本谷地区を訪れ、石見銀山最盛期の採掘跡などを見学しながら、山頂近くの石銀集落跡まで登った。このイベントは当初は9月19日（月）で計画していたが、台風のため延期してこの日の実施になった。

④啓発事業

□平成28年度三瓶小豆原埋没林普及啓発業務

期　間：9月13日（火）～1月31日（火）

内　容：島根県が実施する埋没林保存検討業務の一部として、普及啓発にかかる業務を受託して、下記の項目を実施した。

・ガイダンス

期　間：9月16日（金）～9月25日（日）

内　容：展示室内の奥側（小展示棟側）の階段下に40インチのテレビモニタを設置し、画像等を表示しながらスタッフが15分程度のガイダンスを行った。あわせて、アンケート調査を実施し、215件の回答を得た。ガイダンスについては大変好評で、今後も必要という意見が大部分を占めた。

・出張ガイダンス 市民向け講座

実施日：10月20日（月）

参加者：1名

内　容：大田市民センター研修室で、埋没林をテーマに講座を行った。参加者が1名にとどまり、テーマを埋没林に限定すると集客が難しいことが浮き彫りになった。

・出張ガイダンス 学校出前授業

実施日：大田市立鳥井小学校6年　　10月 6日（木）
　　大田市立大森小学校5・6年　10月 7日（金）
　　大田市立久屋小学校6年　　10月26日（水）
　　大田市立志学小学校5・6年　11月18日（金）

内　容：大田市内の小学校を対象に募集し、希望があった学校で埋没林と三瓶火山をテーマに出前授業を実施した。地域学習としての利用を主な対象と想定していたが、実施校はいずれも理科の地層学習の一部としての利用であった。授業とあわせて児童に埋没林の招待券を配布したところ、後日教員から、何人もの児童が家族で埋没林公園を訪れたとの情報があり、出前授業は地元向けの普及啓発として効果があると感じられる結果であった。

⑤埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

週1回の地下水観測と月1回の水質調査を継続して実施したほか、保存処理方法の検討を目的とした三瓶小豆原埋没林埋没木保存処理業務を島根県から受託して実施した。

また、第7回保存検討委員会(島根県自然環境課主催)が11月1日に開催され、これに出席した。

□平成28年度三瓶小豆原埋没林埋没木保存処理業務

期　間：6月28日(火)～2月10日(金)

内　容：昨年度の第6回保存検討委員会において、展示室内の埋没木の変形を防ぐ保存処理法として、甘味料の一種トレハロースを樹幹に含浸させることが提案された。本業務では、その有効性や作業性を確認するために、展示室内の倒木を対象に、トレハロース溶液の塗布試験と含浸量の測定などを実施した。塗布試験は7～10月に溶液濃度を変えながら60回の塗布を行い、濃度変更の都度に材の試料を採取して含浸量を測定した。この試験により、トレハロースの有効性とともに樹皮が残る幹は作業性が悪いことが確認された。

（３）施設ＰＲ事業

①広報営業活動

広告掲出やチラシ類の配布は、夏期企画展を中心とした集客時期に重点的に実施した。広告掲載は、夏期企画展の共催広告企画を、山陰中央新報社と中国新聞社の2社で実施し、両紙とも複数回の広告掲載や記事掲載によって島根県と広島県からの集客を図った。同時に、テレビCMも山陰両県と広島県で放送した。

チラシ類の配布では、年度当初に島根県内の全児童へのイベントカレンダーの配布、夏期企画展期間の無料招待券を島根県、広島県の全児童、木のおもちゃ展のチラシをおもに県央部の幼保育園に配布するなど、児童と園児への配布を重点的に行った。これらは集客施設等への設置も行っている。また、さんべ祭やお正月イベントでは、チラシの新聞折込を実施した。

外部で実施されるイベント会場でのPRでは、「町村フェスタ(松江市)」と「石見肉祭り(江津市)」等にPRブースを出展した。また、「島根ふるさとフェア」では大田市観光協会と帯同してPRを行った。

地域連携で実施するものとして、三瓶山広域ツーリズム振興協議会の三瓶フェア(モンベル岡山店、モンベル広島紙屋町店)に参加して三瓶山地域のPRを行った。

□営業活動

三瓶山広域ツーリズム振興協議会等への参画を通じて、大田市観光振興課と同観光協会との情報共有を密に行った。このことが、他機関が作成するパンフレット類での情報発信や、テレビ等の取材機会につながっている。

埋没林公園では、冬期を中心に県内の観光関連施設への訪問PRを実施した。

②情報発信

□ＷＥＢサイト･ＳＮＳ

各施設のホームページに施設の基本情報とイベント等の情報を掲載し、臨時的な情報などはSNSを併用することで情報発信を行った。

三瓶自然館のHPのアクセス数は、平日は150件前後で推移し、ゴールデンウイーク(5月4日、610件)や夏期企画展開始日前後(7月17日、758件)、盆期間(8月12日、968件)などにピークがみられ、来館者数の動向とよく対応している。

□ケーブルテレビ(ぎんざんテレビ)

地元ケーブルテレビ局とタイアップして、三瓶自然館の情報番組「さんべ発！サヒメルnavi」を毎月制作し、三瓶山や島根の自然や当館のイベント情報の提供を続けている。放送開始から8年目となり、島根県内の視聴世帯数は16万世帯を超え、三瓶や自然館のPRに大きく貢献している。また、大田市内においては、高齢者の聴取率が高い音声告知を活用したイベント告知も実施している。

◆平成28年度「さんべ発！サヒメルnavi」放送内容

放送日	放送内容	放送日	放送内容
4/8	鳥の声をききにいこう	10/14	コウモリウオッチング
4/22	ビジュアルドームリニューアル	10/28	木のおもちゃ展
5/13	姫逃池のカキツバタ保全事業	11/11	地層学習
5/27	埋没林公園の出前授業	11/25	冬の星座案内
	ビジュアルドームリニューアル式典		
6/10	夏の星座と天文事業室	12/9	研究活動・鳥類調査
6/24	ミュージアムショップひめのが	12/23	北の原ファンタジー2017 Part1
7/8	夏の企画展「ジュラシック・シー」	1/13	冬の動物のくらし
7/22	学習プログラム紹介	1/27	北の原ファンタジー2017 Part2
8/12	夏の企画展　２階展示室	2/10	放射線学習
8/26	夏の企画展　アンモナイト	2/24	春の企画展「キノコだれの子？」
	夏の企画展　体験コーナー		
9/9	希少昆虫の生息調査	3/10	春の企画展「キノコだれの子？」
9/23	埋没林出前講座	3/24	マグマの実験室
	夏の企画展　化石ハンター		

□ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報、環境事業部門の活動情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。友の会会員、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

（４）施設の維持管理

平成27年度から平成34年度までの指定管理施設･設備の維持管理は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書･協定書(以下「仕様等」)」を遵守し、現指定管理申請時(平成26年10月)に策定した平成27年度から平成34年度までの管理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとしている。

平成28年度では、重点項目としていた設備台帳システムの構築のほか、改正法令への対応、行政が推進する整備計画･事業への協力、省エネ運営等に取り組み、将来を見据えた管理に努めた。しかし、施設建設後25年を経過しており、年度当初(4月)に標本収蔵室の空調が老朽により故障したほか、6月には第一水源(補助水源)の水質異常、8月にはバイオマス空調燃料(木質ペレット)の供給が途絶えるなど、大きなトラブルが相次いだ。財団としては早期での復旧を目指して対応したものの、これらのトラブルは指定管理者だけで解決できるものではなく、多くの事項で課題が継続している。

【指定管理期間での管理業務基本方針】
・管理者の都合ではなく利用者のための管理
・県民の財産をお預かりしている意識
・自然環境や地球環境に優しい管理

①各管理にあたっての特記事項

a　設備･備品類の管理

管理業務基本方針に基づき、専門業者による定期的なメンテナンスのみならず、職員による日常的な点検を実施し、トラブルが発生する前での早期発見、早期対応に努めている。

施設に付随する設備･備品類についても、適切な維持･運用を図ったほか、設備台帳システムによる設備情報のデータベース化を進めた。

設備トラブルは、県や専門業者と密接に連携を取りながら対応し、軽微なものは迅速に復旧したが、収蔵庫空調、バイオマス空調等、大規模な事項については、年度内での復旧はできなかった(ただし平成29年度当初において復旧予定)。

また、県有施設長寿命化推進事業、国立公園満喫プロジェクトなど、行政が推進する整備関連事業について、設備の情報提供、要望、提案等の協力も行った。ただし、当年度での県による設備更新等はなかった。

b　野外環境の管理

管理域(三瓶山北の原～東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者･来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

②コスト縮減状況

管理にかかるコストは、光熱水費を中心に、総額として対前年比8%の縮減をすることができた。ただし、本年の光熱水費での減少は、原油情勢や設備トラブルによる設備の運用停止によるところが大きく、今後、揺り戻しの可能性もある。

設備保守費では、設備管理に係る県からの大規模な業務受託がなかったため、その分前年を下回ったが、ルーチンの保守委託費はほぼ例年並みであった。なお、委託業務に係る物価や業者人件費は上昇傾向にあり、予算枠が長期にわたって固定されている指定管理者制度のなかで、委託相手との難しい交渉を続けている。

その他経常事務費は、財団負担の修繕が増加したほか、光熱水費等の縮減鞘から管理用品類の更新を図ったため増加となったが、引き続き縮減に努めている。

◆管理コスト縮減状況(自然館及び小豆原埋没林公園の合計、単位：千円)

項　　目	平成27年度 決算額(A)	平成28年度 決算予定(B)	縮 減 率 (B/A-1)*100
光熱水費	19,542	16,741	△14.3%
設備保守費(外注委託)	68,587	62,623	△8.7%
経常事務費	10,853	11,482	＋5.6%
合　　計	98,982	90,826	△8.2%

③保安･危機管理

当施設における危機管理は、火災や設備故障などのハード的な障害から、犯罪や人身事故などの人的なもの、さらにスズメバチなどの危険生物や豪雨、倒木、積雪等による自然的なものなど、多様な状況が想定されるが、当財団では「来館者･来園者の安全確保」を第一優先事項とし、危機事態の防止･回避、発生した場合の対応にあたっている。

平成28年度では、重大な事故等は発生しなかったが、その他保安･予防対策として次のような活動を行った。

・繁忙日での道路渋滞、駐車場渋滞に対し、警備員配置による公道整理のほか、職員による駐車場内の安全誘導。同様に、館内の誘導による混雑緩和。
・倒木、土砂崩れ、ハチ営巣等、登山道や自然歩道に関する情報発信のほか、関係機関への対応要望。
・滑りやすい箇所での滑り止め設置や立ち入りの制限。冬季凍結箇所への融雪剤散布。
・積雪時、開館時間前まででの除雪。屋根下など落雪エリアの封鎖、危険周知。

なお、平成28年度から危機管理マニュアルの見直し、作業マニュアルの作成を進めているが、想定されるリスクや作業が多岐にわたっているため、完成に至っていない。29年度でも引き続き検討を行うこととしている。

④その他（特記事項）

4月～　標本収蔵庫専用の空調設備が老朽により故障

当該設備の不調はこれまでも県へ改善を訴えてきたが、故障したため、早急な設備更新を求めた。県と協議のうえ、応急措置として、標本収蔵庫の完全封鎖、仮設クーラーの設置等を試み、29年度当初において更新される予定となっている。

5月　三瓶周回道路での倒木事故発生

当館利用者が自家用車で三瓶周回道路を通行中、風により木が倒れ、車両が全損する事故が発生した。当該利用者に怪我等はなく、事故現場も財団の管理区域ではなかったが、事故者の保護、警察･行政への通報などの事故処理に協力した。周回道路での枯れ木や危険木は増加しており、行政による抜本的な対策が望まれる。

6月～　第一水源の水質異常

補助水源として運用している第一水源での水質検査で、基準値を超える鉄･マンガンが検出され、同水源からの給水禁止措置をとった。原因が特定できないため対策が取れず、現在も基準値超えが続いている。状況監視を続けているが、今後、同水源の管理継続も含め、県の判断を待つこととしている。

8月～　バイオマス空調設備の運用停止

バイオマス空調設備の燃料である木質ペレットが、ペレット生産業者の事由により納入できなくなり、長期間にわたり当該設備の運用を停止せざる得なかった。現状では、島根県内では同設備に適合する国内産ペレットを生産又は納入できる業者がなく、当館でのエネルギー循環型構想において、大きな課題となっている。なお、29年度からは県外のペレット業者から納入を受けることとし、設備の再稼動を予定している。

２．調査研究・資料収集 整理事業

（１）事業概要

自然系の博物館として、地域の自然史解明や自然環境保全に資する調査研究及び、博物館資料の収集･整理･保管を行っている。また、外部の行政機関などからの調査研究等の依頼についても、当財団がもつ専門知識を活かすことができるものについては、積極的に受託･協力している。

（２）調査研究

①研究項目と成果概要

a　指定管理業務における調査研究

□三瓶火山噴出物の岩石化学的研究

三瓶火山の過去7つの活動期の中で特に多様な噴火を引き起こした第Ⅳ活動期を対象に、当時のマグマだまりの温度圧力状態解明を目指すため、噴出物に含まれる造岩鉱物の化学組成分析を行った。(遠藤大介)

□太陽系外惑星を含む連星系および変光星の観測

国内外の観測ネットワークに参加し、観測結果や観測技術について情報交換を行うとともに、当館の60cm反射望遠鏡において冷却CCDカメラによるUBVRI多色測光観測を実施した。平成28年度は、アルゴル型食連星XZ Andの測光観測で得られた光度曲線を解析し、慶応大学で開催された連星系･変光星･低温度星研究会2016(平成28年10月開催)において、その結果を発表した。また、当館の4連式クーデ望遠鏡の特徴を発揮できるユニークな観測として、連星系および変光星の光干渉計観測を候補として検討しており、平成28年度には、予備的な実験として、レーザを光源とした光干渉計実験を実施した。(矢田猛士)

□学習プラネタリウムの開発

星の学習や学習投影に関する実態の把握のため、前年度、投影前のアンケートや投影後の聞き取りにより、教員の意識を調査した。それに基づきプログラムを改良し実施した。全国規模での実態調査を含め、今後も継続的な改良を行う予定である。(竹内幹藏)

□堀田仁助(津和野町出身)の天球儀に関する研究

津和野町の太鼓谷稲成には、津和野藩士堀田仁助製作の天球儀が所蔵されている。平成28年度はこの天球儀の写真を撮影し、描かれている星座を特定した。この天球儀には伝統的な中国星座257個と渋川春海が制定した星座52個が描かれていることが確認できた。(龍　善暢)

□池田鉱泉を含む天然の放射能を利用した放射線学習プログラムの開発

当館と地元の学校教員との共同でプログラム開発に取り組み、教員向け研修会「教員のための博物館の日」(平成28年8月17日開催)において紹介し、参加した多くの教員の興味と関心を高めることができた。また、島根大学および島根県立大田高等学校と連携して取り組んでいる、高校生向けの放射能泉を活用した課題研究型プログラム構築について、平成28年8月に信州大学で開催された日本理科教育学会全国大会において発表した。その後、平成28年度第13回島根県高等学校理数科課題研究発表会(平成29年3月)において、大田高校の池田鉱泉を線源に用いた課題研究が島根県の代表のひとつに選出され、平成29年8月には、岡山県で開催される中国･四国･九州地区大会で発表が行なわれる予定である。

霧箱実験等に使用できる島根県内の天然の放射能調査として、平成28年度は飯南町で現地調査を実施し、新たに、加田の湯および頓原天然炭酸温泉ラムネ銀泉の温泉水が実験に使用できることを確認した。平成29年2月には、飯南町教育委員会からの依頼により、これらの温泉水を活用した放射線学習を、頓原中学校および赤来中学校において実践した。(矢田猛士)

□ミズラモグラ等の生息調査

捕獲調査を実施したが、普通種であるコウベモグラのみの確認にとどまった。巣穴径が種によって違うといわれており、今後も引き続き、ミズラモグラ、コモグラの生体確認を行う予定である。(安藤誠也)

□ヤマネの生息調査

文献から過去の生息情報の確認を行った。近年目撃情報があった益田市域で巣箱の設置作業を行った。また津和野町で保護された個体について、現地調査を実施し、聞き取りによって新たな生息情報を得た。(安藤誠也)

□旧ふれあいの里奥出雲公園における希少鳥類等生息調査

旧ふれあいの里奥出雲公園(さえずりの森)における鳥類の生息状況の把握を目的に、希少鳥類の繁殖調査と構成種の把握調査を行った。希少鳥類調査では、アカショウビンを対象として3年前からジオロケーターを装着して放鳥し、越冬地の解明を進めている。本年度はサントリー世界愛鳥基金より支援を受けて、小型GPSロガーを6羽に装着することができた。構成種の調査では、平成23年度にナラ枯れ対策として森林の一部が伐採されたことから、環境の変化とその影響についての検討を行っている。(星野由美子)

□三瓶山でのコルリ･ソウシチョウ等の調査

三瓶山頂付近で、コルリおよびソウシチョウの繁殖確認の予備調査を行った。コルリは繁殖の確認には至らなかった。ソウシチョウは標高800m以上のササ藪などから山頂部の各所で繁殖を確認した。(星野由美子)

□三瓶山周辺繁殖鳥類の渡り調査

三瓶山周辺は、天然記念物としての三瓶山自然林などがあり、多くの夏鳥などが繁殖を行っている。そこで、繁殖鳥類のモニタリングも含め、鳥類に標識を行って渡り調査を実施することで、越冬地やルート解明につなげるための調査を行う。平成28年度は三瓶自然館水場周辺で標識調査を実施したほか、三瓶山域内で冬鳥であるミヤマホオジロの繁殖が確認された。(星野由美子)

□ダイコクコガネ等の希少昆虫調査

東の原のダイコクコガネは、8月までは少数の発生を確認できたが、9月以降牛の放牧が行われずダイコクコガネは確認できなかった。繁殖期に影響が出たと思われるため、来年度以降のダイコクコガネを含む糞虫類の発生への影響が懸念される。

8月に雲月山で行ったホソハンミョウの調査では確認できなかった。唯一の既知生息地は生息環境である裸地が藪化により著しく減少しており、生息状況が危惧された。(皆木宏明)

□三瓶山の昆虫相に関する調査

西の原での調査で、県RDB種のクモガタヒョウモン、トラサンドクガ、ヤマトタマムシ、ショウリョウバッタモドキを確認し、また県初記録種としてギンヒゲナガ、ルリハダホソクロバを確認した。ヤマトタマムシを除いていずれも草原性と考えられる種であり、三瓶山の草原環境の豊かさを示していると示唆された。(皆木宏明)

□新種昆虫クロゲンセイの生息調査

島根県で発見された新種昆虫クロゲンセイの分布生態を明らかにするために、県内の生息地の確認や、成虫の発生状況の調査などを行った。(大畑純二)

□レッドデータブック掲載植物の現況調査

レッドデータブックに掲載されている植物で、現在の生育状況が不明な種のうち、本年度は5種類の維管束植物について、現地での確認調査を行った。あわせて、有識者の協力を得ながら、標本による既存の分布情報の整理を行った。(井上雅仁)

□県立自然公園「地倉沼」(津和野町)の動植物調査

島根県内の県立自然公園である地倉沼を対象に、植物と昆虫を中心とした現地調査を行った。植物については湿性草原などを対象に植生調査と植物相調査を、昆虫については池と周辺の昆虫相調査を行った。(井上雅仁・三島秀夫)

□三瓶山草原の管理と草原性希少植物保全に関する研究

三瓶山の今後の草原保全に資することを目指して、管理手法の違いに伴う草原性動植物の種類相や開花の変化、保全活動が行われている希少植物をモニタリング調査を行った。これらの結果は、保全活動へフィードバックを行った。また、三瓶山草原の保全のために他の草原研究者と情報交換を行った。(井上雅仁)

□博物館の利用実態調査

年間を通じて、来館者から、居住地、来館動機などについて聞き取り調査を実施した。(龍善暢)

b　受託事業による調査研究･普及啓発

□石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年以上の越冬個体が確認されたコウモリもおり、一般公開後も冬眠場所として利用されていることが確認された。(大畑純二・三島秀夫・井上雅仁・安藤誠也)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000、公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が生物多様性国家戦略の中で提唱しているプロジェクトで、平成15年からスタートした。全国にサイトを設け動植物の生息状況を長期的にモニタリングすることで、生態系の劣化やその他問題点の兆候を早期に発見し、生物多様性の適切な保全のための対策に資することを目的としている。サイトは、森林、里地里山、湿地などの生態系タイプごとに分けられ、三瓶山北の原は、全国的に減少しつつある草地があることから、里地里山タイプのコアサイトとして主に植物と鳥類の調査を実施中。(井上雅仁・星野由美子)

②研究成果の公表(※印は館外の研究者)

□論文、報告書

矢田猛士(2017)散開星団M67を使った三瓶自然館60cm反射望遠鏡の測光補正観測. 島根県立三瓶自然館研究報告 15: 51-54.

大草秀美・細田須美子・小田佐由香・太田哲朗(2017)字幕付きプラネタリウムの投影. 島根県立三瓶自然館研究報告 15: 87-88.

嘉数次人※・龍　善暢・竹内幹藏・太田哲朗・矢田猛士(2017)堀田仁助の天球儀－外観と描かれた星座－. 島根県立三瓶自然館研究報告 15: 45-50.

遠藤大介(2017)アンモナイトの生態を紹介するためのハンズオン展示の製作. 島根県立三瓶自然館研究報告 15: 55-61.

遠藤大介・中田健太郎※・菅田康彦※・田渕晋平※(2017)地域に埋もれた地学資料の発掘と普及教育への活用実践－島根県のアンモナイト化石を例に－. 島根県立三瓶自然館研究報告 15: 89-98.

大畑純二(2017)セグロアシナガバチとクロアゲハの蛹化過程．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 1-11.

大畑純二(2017)島根に生息する2種のキクガシラコウモリ科とユビナガコウモリ．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 31-43.

星野由美子・市橋直規※(2017)三瓶山におけるミヤマホオジロ*Emberiza elegans*の繁殖．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 63-65.

皆木宏明(2017)三瓶山で採集されたアカマダラハナムグリについて．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 83-84.

皆木宏明(2017)島根県美郷町で採集されたアトラスオオカブトについて．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 85-86.

三島秀夫(2017)島根県で採集されたガ数種について．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 77-81.

井上雅仁(2017)石見銀山遺跡柵内地区に成立する森林植生の種組成について．石見銀山遺跡テーマ別研究報告書2: 85-91.

井上雅仁・松原勝志・安部祐史※・柳浦正夫※(2017)タンポポ調査・西日本2015で確認された島根県のタンポポについて．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 21-30.

林　蘇娟※・大津浩三※・井上雅仁(2016)隠岐諸島におけるラン科植物の分布現状と新記録．分類 16(2): 159-173.

高橋佳孝※・井上雅仁(2017)三瓶山ススキ草地の種多様性を指標する植物種の抽出．島根県立三瓶自然館研究報告 15: 13-19.

□学会・研究会等での発表

矢田猛士・鳴沢真也※(2016, 10)アルゴル型食連星XZ Andの観測と光度曲線解析．連星系･変光星･低温度星研究会2016.(神奈川)

矢田猛士・下垣章裕※・松本一郎※(2017, 8)放射能泉を活用した課題研究型プログラムの構築．日本理科教育学会第66回全国大会．(長野)

井上雅仁・高橋佳孝※(2017, 3)島根県三瓶山麓の刈り取り草原における絶滅危惧植物スズサイコの動態．第64回日本生態学会大会.(東京)

（３）資料の収集･整理

①自然系博物標本の収集と整理

a　指定管理業務における資料収集整理

□地学標本

島根県内の地学情報および資料の収集を行った。個人および自治体等の団体所有の岩石･鉱物･化石の視察を行い、今後の活用について検討した。また、夏期特別企画展に合わせて模型標本の製作を行った。

□天体画像

当館の天体観測施設において、天文現象を映像資料として記録した。今年度は太陽系天体のほか、散光星雲を中心に撮影を行った。

主な撮影天体：太陽、月、金星、火星、木星、土星、オリオン大星雲、バラ星雲など。

□動物標本

本年度製作した動物標本は鳥類、哺乳類併せて次の5種5点である。

骨格標本：哺乳類製作：イノシシ

本剥製標本：鳥類製作：オオミズナギドリ(開翼)、シジュウカラ(オス：足輪付)
カンムリカイツブリ、オオバン

□昆虫標本

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の森山チョウ類標本や主として県内で採取した未整理の標本を中心に計3,000点の標本データの入力を行った。また、次年度昆虫の企画展に向けて、展示用としてカブトムシ、クワガタムシの標本の収集と標本化を行った。

□植物標本

枚村喜則氏収集のさく葉標本の整理、キノコレプリカの製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、GBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

枚村喜則氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：4,000点

キノコレプリカの製作：マツタケなど8点

b　受託事業による資料収集整理

□三浦正昆虫館標本整理･活用業務(浜田市より受託)

浜田市三隅町出身の三浦正島根大学名誉教授が､浜田市に寄贈された昆虫標本の同定整理作業。合わせて収蔵展示を行っている三浦正昆虫館での標本管理の指導、昆虫館を会場に地元市民との昆虫採集や標本作成イベントを実施した。(皆木宏明・三島秀夫)

□自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている枚村喜則氏収集植物標本のデータについて､所定の様式に変換し､約4,000点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営するS-netや、国際的なデータベースであるGBIFに掲載される。(井上雅仁)

②関連図書の収集

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

購入図書：62冊

③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫やカビの防除を目的として燻蒸を行い、資料の劣化防止に努めた。収蔵庫の燻蒸は専門業者によって殺虫殺カビの薬剤を使用して年1回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、当館の大型常圧燻蒸庫を用いて適宜燻蒸を行った。今年度は、収蔵庫の空調が故障したため、スポットクーラー、除湿器や除湿剤の設置、収蔵庫への立入制限などにより、資料の劣化防止に努めた。

□収蔵庫の全室密閉燻蒸

対象：第一乾燥収蔵庫および第二乾燥収蔵庫の庫内及び収蔵資料

期間：6月5～8日

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期間：適宜実施

３．地域との連携、その他事業

（１）地域との連携

□姫逃池カキツバタ保全作業

日　時：6月12日(日)　9:30～12:00

参加者：約70人

内　容：市民グループ、行政機関、一般参加の市民ボランティアなどと協力して、姫逃池のカキツバタの成長を助けるために草刈り作業を行った。協力団体は次のとおり。島根県環境生活部自然環境課、大田市環境政策課、大田の自然を守る会、NPO法人緑と水の連絡会議、環境省松江自然保護官事務所、国立三瓶青少年交流の家、大田市観光協会、島根県自然保護レンジャー、三瓶自然館インタープリターの会など。

□三瓶山広域ツーリズム振興協議会

大田市、美郷町、飯南町の1市2町の行政および団体で構成され、アウトドアを中心に、三瓶山周辺地域への誘客を図る協議会に参画し、PR活動、パンフレット作成、商品開発に向けた勉強会等、各種事業を実施した。当館は昨年度に引き続きアウトドアショップ「モンベル」の店頭におけるPRイベント「三瓶フェア」を担当し、事業の企画と、岡山店(5月)、広島紙屋町店(3月)で事業を実施した。

□三瓶ヘルスツーリズム協議会

大田市の助成を受け、ウオーキングマップの作成や日の出登山などの商品化に向けた取り組みを行った。また、一般社団法人関西ノルディックウォーキング協会の協力を得て、インストラクターの養成講座が開催された。

□石見銀山遺跡世界遺産登録10周年事業実行委員会

10周年事業実行委員会の一部会である観光キャンペーン実行委員会に参加し、観光誘客に向けた事業の計画立案に参画した。また、保全活用部会にもオブザーバー参加しているが、本年度は会議等はなかった。

□三瓶山神楽大会実行委員会

大田市観光協会三瓶支部、国民宿舎さんべ荘、国立三瓶青少年交流の家等と実行委員会を構成し、しまね文化ファンドの助成を受けて9月24日に石見神楽の共演大会を開催した。三瓶山の立地と出雲神話とも関わる民俗的位置が、石見神楽の成立において象徴的な存在であることをアピールする機会と位置づけた共演大会で、県内外から400人を超える参加者があった。

□三瓶地域交流会(三瓶地区親睦鍋大会2016)

日　時：10月24日(月)

参加者：60名

会　場：北の原キャンプ場セントラルロッジ

内　容：三瓶地区における住民と施設スタッフの交流会を昨年に続いて開催。池田、北三瓶、志学の三地区住民、当財団及び国立三瓶青少年交流の家職員に加え、今年度は地域の宿泊施設、飲食施設等スタッフにも声がけを行った。セントラルロッジのホールにおいて鍋を囲みながら親睦を深め、お互いの理解が進んでいく良い契機となった。

□三瓶地域女子会「新そば＆持ち寄りパーティー　in Yumoto」

日　時：11月28日（月）

参加者：約20名

内　容：三瓶地区に在住、勤務する女性を対象とした交流会を初開催した。
企画の趣旨にちなみ、女性そば打ち職人の方が経営する湯元旅館に協力を依頼し会場として利用した。湯元旅館の新そばとあわせ、各自が持ち寄った料理を囲みながら親睦を図った。女性同士ということでトークも大いに盛り上がり、互いの情報交換の良い機会となった。

□クリーン三瓶

日　時：5月15日（日）

参加者：約200名

内　容：三瓶山の関連機関が実行委員会を構成し、ボランティアを募って実施する清掃作業。
当財団も財団設立以来、実行委員の一員として協力、参加しており、当年もお手植えの松から三瓶自然館まで、周回道路のゴミ拾い等を行った。当財団が担当した範囲では、年々ゴミは減少する傾向にあるものの、倒木や枯れ木、道路に積もった落葉が増えつつあり、景観への影響を懸念している。

（２）他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物施設が合同で、情報交換会や研修会を実施している。平成28年度、29年度は三瓶自然館が幹事館となっており下記の会議を開催した。

〇学芸担当者会議

期　日：12月12日（月）～13日（火）

会　場：三瓶自然館サヒメル

〇管理職会議

期　日：2月27日（月）

会　場：スカイホテル大田 会議室

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。平成28年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などの発信をした。

□国立三瓶青少年交流の家

三瓶青少年交流の家の地域連携事業「三瓶地域教育ネットワーク事業」に参画し、三瓶小豆原埋没林公園のイベント「おおだエコツアー」を共同開催した。大田市内の自然や歴史的な要素を訪ねるガイドツアーで、波根西の珪化木、三瓶の巨木、石見銀山とたたらをそれぞれバスを使って訪問、見学した。

〇石になった巨木を見に行こう

期　日：5月22日（日）

内　容：大田市久手町の「波根西の珪化木」と埋没林を見学した。

〇さんべの巨木めぐり

期　日：7月18日（月）

内　容：埋没林と大田市三瓶町の巨木を見学した。巨木は、「本宮神社の大杉（三瓶町上山）」、「定めの松（三瓶町池田）」、「浄善寺の大イチョウ（三瓶町池田）」の3カ所。

〇銀山とたたらをめぐる

期　日：11月26日（月）

内　容：「百済たたら跡（大田市鳥井町）」と「石見銀山仙ノ山本谷（大田市大森町）」を見学した。

（３）行政等への協力

各種委員会委員等の受諾

名称	氏名	期　間	依頼元
大田市環境審議会委員(副会長)	酒井 浩純	H27. 7. 1 － H29. 3.31	大田市長
国立三瓶青少年交流の家施設業務運営委員会委員	酒井 浩純	H28. 4. 1 － H30. 3.31	国立三瓶青少年交流の家所長
大田商工会議所参与	酒井 浩純	H28.11. 1 － H31.10.31	大田商工会議所会頭
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	酒井 浩純	H27. 7. 1 －	大田市
大田市観光協会副会長	酒井 浩純	H27. 7. 1 －	大田市観光協会
三瓶小豆原埋没林保存検討委員会委員	酒井 浩純	H27. 7.25 － H29. 7.24	島根県知事
大田市山村留学推進協議会委員	龍　善暢	H20. 4. 1 － H29. 3.31	大田市教育委員会教育長
日本プラネタリウム協議会副理事長	龍　善暢	H22. 7. 1 － H30. 6.30	日本プラネタリウム協議会
大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	龍　善暢	H24. 7. 1 － H29. 6.30	大田市教育委員会教育長
大田市教育ビジョン策定委員会委員	龍　善暢	H28.10.17 － H29. 3.31	大田市長
大田市山村留学検討委員会委員	米浦 道子	H28. 6.20 － H29. 3.31	大田市教育部山村留学センター長
石見銀山遺跡客員研究員	中村 唯史	H23. 4. 1 － H29. 3.31	島根県教育委員会教育長
出雲市文化財保護審議員	中村 唯史	H27. 6. 1 － H29. 5.31	出雲市長
江津市文化財保護審議員	中村 唯史	H27. 4. 1 － H29. 3.31	江津市長
大田市文化財保護審議員	中村 唯史	H28. 4. 1 － H30. 3.31	大田市長
大田市社会教育委員	中村 唯史	H28. 2. 1 － H30. 1.31	大田市長
大田市新観光振興計画策定委員会委員	中村 唯史	H28.10. 1 － H29. 3.31	大田市長
希少野生動植物種保存推進員	井上 雅仁	H21. 7. 1 －	環境大臣
島根県自然環境保全審議会委員	井上 雅仁	H21.11.12 － H30. 1.31	島根県知事
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井上 雅仁	H20.10.20 －	大田市教育委員会教育長
島根県環境影響評価技術審査会委員	井上 雅仁	H24. 1. 1 － H29.12.31	島根県知事
石見銀山遺跡調査専門委員会委員	井上 雅仁	H26. 4.28 － H29. 3.31	島根県教育委員会教育長
斐伊川放水路環境モニタリング協議会委員	井上 雅仁	H27. 3.16 － H29. 3.31	国土交通省出雲河川事務所長
大田市未来につなぐ森づくり構想策定委員	井上 雅仁	H28. 4.26 － H29. 3.31	大田市長
くにびきジオパーク推進協議会運営委員	井上 雅仁	H28. 8.19 －	くにびきジオパーク推進協議会
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星野由美子	H14. 4. 1 － H29. 3.31	島根県農林水産部農村整備課長
自然観察指導員講習会全国講師	星野由美子	H16. 4. 1 －	公益財団法人日本自然保護協会
島根県環境影響評価技術審査会委員	星野由美子	H17. 1. 1 － H29.12.31	島根県知事
島根県自然環境保全審議会委員	星野由美子	H26. 1.16 － H30. 1.31	島根県知事
島根県国土利用計画審議委員	星野由美子	H28.10.25 － H31.10.24	島根県知事
島根県満喫プロジェクト地域部会委員	星野由美子	H28.10. 6 －	島根県環境生活部長
島根天文協会会長	竹内 幹藏	H17. 6 －	島根天文協会
希少野生動植物種保存推進員	大畑 純二 (客員研究員)	H21. 7. 1 －	環境大臣
大田市文化財保護審議員	大畑 純二 (客員研究員)	H26. 4. 1 － H30. 3.31	大田市長

（４）各種研修の受け入れ

□博物館実習

島根大学　11月9日(水)～14日(月)　実習生：17名

□インターンシップ(職場体験)

島根県立邇摩高等学校　10月12日(水)～14日(金)　生徒：1名

□教育関係研修

・教員免許状更新講習(主催：国立三瓶青少年交流の家)

期　日：8月7日(日)

内　容：植物･･･子ども達がワクワクする自然観察の技術【講義･実習】

・高等学校理科教育生物講座(主催：島根県教育センター)

期　日：9月9日(金)

内　容：植物の分類、島根県の貴重な植物など【講義･実習】

Ⅲ．地球環境の保全に関する活動支援事業

１．事業概要

当財団は、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるために、地方自治体などの行政組織をはじめ、さまざまな地域課題の解決に自ら率先して取り組む、NPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、分野横断的な取組や多様な主体が協働する取組を今後一層促進するため、活動の充実を図った。

また、当財団は、島根県知事より島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、これまで地球温暖化対策に取り組んできた。2016年のパリ協定の発効を受け、国が進める新たな温室効果ガス削減目標の達成に向けた国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、県民一人ひとりに低炭素・循環型社会の実現につながる行動変容を促すため、多様な主体と協働・連携しながら活動を進めた。

２．地球温暖化対策

（１）家庭向け地球温暖化対策事業

①県地球温暖化対策協議会生活部会の運営

県地球温暖化対策協議会・生活部会の事務局として、同部会に参画する各種団体と連携しながら、生活者の立場で進める地球温暖化防止の県民運動に取り組んだ。

・運営委員会の開催　計2回(会場：タウンプラザしまね)
　第1回　8月5日　活動の実施状況の確認
　第2回　3月21日　活動評価、次年度活動活動計画の検討

②草の根で取り組むエコの種まき事業の実施

ａ　広報活動

・県民一般に対し、地球温暖化防止活動の重要性を伝え、実践を促すため、年間を通じた財団ホームページによる情報の提供、島根県広報の利用、リーフレットの配布等の広報活動を展開した。
・国が中心となって進めている日本が世界に誇る省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策のためのあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」について、県内での周知を図るとともに、取組の促進を図った。
・国等が定める環境に関する月間に合わせ、「エコドライブ」など家庭における省エネ促進を啓発する取り組みを行った。
・県内各地域において開催されたイベント等を活用し、島根県地球温暖化防止活動推進員、各市町村地球温暖化対策地域協議会会員等と連携しながら運動を推進した。

ｂ　しまねエコライフサポーターズの活動支援

県内で活動する島根県地球温暖化防止活動推進員どうしが連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画・実施できるよう、推進員のネットワーク化と活動支援を行った。

□ネットワークの立ち上げ支援

概　要：推進員同士が連携し、より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、「しまねエコライフサポーターズ連絡会」などで情報を共有しながら、活動を行った。

活動グループ：7グループ（松江グループ、奥出雲グループ、出雲グループ、大田グループ、江津･浜田グループ、益田グループ、隠岐グループ）

連絡会の実施：第1回　4月21日　推進員研修の企画について
第2回　5月26日　活動企画、他地域支援について
第3回　6月23日　次期サポーターの募集について
第4回　7月25日　各グループの活動状況について
第5回　9月21日　推進員研修の企画について
第6回　10月17日　推進員研修の企画、各グループ活動の進捗状況進捗について
第7回　12月 9日　推進員研修、連絡会の構成について
第8回　1月17日　連絡会の構成と総会について
第9回　3月14日　推進員への情報共有の方法について

□グループによる活動

概　　要：地域に密着した温暖化防止活動を行うため、居住市町村もしくは隣接する地域で、地域グループを構成することで推進員が連携し、主体的に活動を企画･実施した。活動にあたっては、各地域グループが企画書および予算書を作成し、連絡会で合意形成を図った後、活動を実施した。財団は、事務局として経費の執行や事務処理等を行うことで、グループの円滑な活動を支援した。

活動内容：(松江)子ども向け環境学習活動と環境フェスティバル展示等
(奥出雲)利き水会と文化祭展示、米袋エコバック講習会
(出雲)環境講演会と再生可能エネルギー活用研修
(大田)もったいない授業
(江津・浜田)たかきびを使ったミニほうき作り
(隠岐)地域の活動に関する意見交換

c　エコドライブ推進キャンペーン

環境省他各省庁が連携して取り組む11月のエコドライブ推進月間に合わせ、エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践によるCO_2削減を目的としたキャンペーンを下記のとおり実施した。

概　　要：エコドライブの実践方法を分かりやすく解説したリーフレットを作成し、各市町村や各推進員等の希望者を通じて県内各所で配布した。また、エコドライブ推進月間の開始に合わせ、地球温暖化対策地域協議会及び地球温暖化防止活動推進員と協力し、県内の6市町で一斉にリーフレットを配布する街頭ＰＲ活動を行った。

実 施 日：11月2日、4日、6日、8日

配 布 数：5,000部

協力団体：安来市、松江市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、邑南町、まつえ環境市民会議、出雲市省エネルギービジョン推進協議会、大田市地球温暖化対策地域協議会、浜田市地球温暖化対策地域協議会、益田市地球温暖化対策地域協議会

実施場所：プラーナ（安来市）、イオン松江店、出雲ドーム、イオン大田店、ゆめタウン浜田、イオン益田店、道の駅みずほ

d　親子で取り組むもったいない生活事業

幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組んでもらえるよう、「親子で取り組むもったいない生活事業」を幼稚園及び保育園を所管する県各課と連携し、各園に参加を呼びかけ、実施した。

□親子で取り組むワークシート

概　　要：幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組めるよう、「しまねっこと5つの約束」ワークシートを製作し、希望する幼稚園及び保育園に配布した。実施したワークシートは回収し、取組結果をとりまとめた。

実施期間：平成28年7月～平成29年2月

実 施 園：54園(参加園児数：1,710名、ワークシート回収数474枚)

削 減 量：275kg-CO_2

□幼･保育園向け親子で取り組むミニエコ講座

概　　要：県内の幼稚園･保育園に参加を呼びかけ、希望した45園でミニエコ講座を実施した。講座では、絵本等の読み聞かせを行った後、布製のバッグにクレヨン等で絵を描いて自分だけのマイバッグを制作するワークショップを行った。

実施期間：平成28年4月～平成29年2月

実 施 園：45園(参加者数：1,253名)

推 進 員：のべ52名が活動

□小学校向け親子で取り組むミニエコ講座

概　　要：松江市内の小学校4年生を対象に、参加者が夏休み期間中の任意の7日間を選択し、家庭内で省エネに取り組めるよう、ワークシートを制作し配布した。市内の小学校35校中31校が取り組み、優秀校は松江市環境フェスティバルで表彰した。

実施期間：平成28年7月～8月末

実 施 園：31校(参加者数：1,703名、ワークシート回収数1,159枚)

削 減 量：4,700kg-CO_2

推 進 員：のべ11名が活動

e　多様な主体と連携した地球温暖化防止活動

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働・連携をすすめ、行政や環境団体団体とともに、主催あるいは共催として関わり活動の企画・運営・支援等を行った。

□県庁打ち水大作戦

概　　要：身近に取り組める地球温暖化防止について、県民に広くPRするため、県庁前駐車場において、近隣の保育所園児や島根県地球温暖化防止活動推進員とともに打ち水を行った。(共催)

実 施 日：7月25日(月)

場　　所：島根県庁前駐車場(松江市殿町)

参加者数：120名

主　　催：島根県環境政策課

協　　力：しらとり保育所、島根県地球温暖化防止活動推進員

□和の文化を学んでみよう！風呂敷包み体験

概　　要：日本に古くから受け継がれてきた風呂敷を活用する体験を通して、日本の文化に触れてもらうとともに、現在でも災害時の活用やゴミ減量につながるなど、新たな風呂敷の活用方法について、知る機会を提供した。(共催)

実 施 日：9月10日(土)

場　　所：公益財団法人しまね国際センター(松江市東津田町)

対　　象：松江市在住外国人

参加者数：20名

主　　催：公益財団法人しまね国際センター

□島根県自治体環境担当職員研修「未来を創る事業企画ワークショップ」

概　　要：地球温暖化など現在の地球環境や地域環境をとりまく問題を認識し、住民一人ひとりのライフスタイルを環境負荷の少ないものへと変革していくために、市町村の環境担当課職員が求められている役割について考え、分かち合うークショップを行った。（主催）

実 施 日：1月27日（金）

場　　所：いわみーる（浜田市野原町）

対　　象：島根県及び県内自治体環境担当職員、地球温暖化防止活動センター職員、浜田市エコオフィス推進スタッフ

参加者数：20名

講　　師：平田　裕之（一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）、パートナーシッププロデュース部　部長）

主　　催：浜田市環境課

共　　催：島根県地球温暖化対策協議会、島根県環境政策課

□ウォームビズファッションショー

概　　要：ウォームビズの普及啓発のため、暖房温度20℃で快適に過ごすことができる服装を紹介するウォームビズファッションショーを実施するとともに、地球温暖化防止のため、暮らしの中で賢い選択を行う「COOL CHOICE」について、普及啓発を行った。（主催）

実 施 日：1月4日（水）

場　　所：イオン松江ショッピングセンター（松江市東朝日町）

参加者数：300名

主　　催：島根県環境政策課

協　　力：松江市朝日婦人会、イオン松江ショッピングセンター

□「銀林の恵み森活プロジェクト」で山林災害を無くそう！講演会

概　　要：地球温暖化防止や災害防止、森林資源の育成など多様な観点から、今後どのように森林を活用し整備を行っていく必要があるのか、具体的事例と森林整備体験について、学ぶ機会とした。（共催）

実 施 日：1月14日（土）

場　　所：ゆきみーる（大田市大田町）

対　　象：大田市民ほか

参加者数：25名

講　　師：野崎　研（当財団職員）
「地球温暖化が進むとどうなる？～地球への影響と将来予測～」
田中　賢治（国土防災技術（株））
「地球温暖化と災害に強い森づくり」

主　　催：銀林の恵み森活プロジェクト実行委員会

共　　催：大田市森林組合、大田市林友会

後　　援：NPO法人緑と水の連絡会議、NPO法人もりふれ倶楽部

□おおだ自然エネルギーパーク2017

概　　要：持続可能な地域づくりを目指して、再生可能エネルギーの利用やライフスタイルの転換を考え、体験できるイベントについて、事業の企画・立案、実施を連携・支援をした。（共催）

実 施 日：3月11日（土）

場　　所：道の駅ロード銀山(大田市大田町)
参加者数：430名
主　　催：おおだ自然エネルギーパーク2017実行委員会
共　　催：大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家
協　　賛：道の駅ロード銀山、JAしまね、ぎんざん市場、大田市森林組合
協　　力：大田市食育ボランティア
後　　援：大田市、大田市商工会議所

ｆ　生ごみ減量の実施と見える化及び広報事業

「３Ｒ普及啓発事業」の項を参照。

③見える化ツール(普及啓発教材)作成とワークショップ開催

しまねエコライフサポーターが地球温暖化防止のための普及啓発の活動を行う際に使用する各種ツールについて、より受ける側の目線に立った効果的なものとするためのツール作成の専門家から話を聞き、サポーター自ら開発にかかわるワークショップを３回開催し、普及啓発に供するためのツールを作成した。

概　　要：推進員等が普及活動において活用する教材を作成した。教材「○○ボックス島根版」は、環境と「食」、「資源」、「観光」、「歴史」を関連づけ、多様な視点から島根県の環境について、体験しながら学ぶ事ができる。作成にあたっては、推進員が参加したワークショップにより、企画、活用方法の検討、製作を行った。
講　　師：森　高一(株式会社森企画)
実 施 日：(第1回) 9月13日(火)
(第2回)10月16日(日)
(第3回)11月17日(木)
場　　所：あすてらす(大田市)
参加者数：(第1回)21名
(第2回)13名
(第3回)15名
製 作 物：○○ボックス４セット(「食」、「資源」、「観光」、「歴史」の各テーマ１セット)

（２）家庭の省エネ促進支援

COP21において、我が国が示した「日本の約束草案」では、家庭から排出されるCO_2を2030年までに2013年比で40%削減することとされており、今後より実効性あるCO_2削減対策が必要となる。島根県においても家庭部門のCO_2排出が課題であり、これらの削減を進めるため、家庭の省エネ行動へとつなげる普及啓発を行った。

①家庭における省エネの見える化の推進

ａ　家庭の省エネ情報の発信

多様な世代に家庭の省エネに取り組んでもらえるよう、情報誌などわかりやすく、実践しやすいアイデア等を掲載し、普及啓発を図った。

□省エネ啓発記事の掲載

概　　要：季節に合わせた家庭での省エネに関する記事の掲載を、情報誌(民間のフリーペーパー)で行うともに、省エネに興味を持った読者が一歩進んだ省エネ行動へ踏み出せるよう、省エネの見える化とより詳しい情報提供のツールとして環境家計簿及びポータルサイトの紹介を行った。

掲 載 誌：情報誌「クルール」
発行部数：60,000部(20,000部×3)
発 行 月：6月、10月、2月
配 布 先：県内東部及び鳥取県西部の幼稚園、保育所等

b　エコライフチャレンジしまね(環境家計簿記帳)の実施

環境家計簿(愛称「エコライフチャレンジしまね」)は、県民自らが家庭のエネルギー種別使用量を入力することで家庭からのCO_2排出量を算定するツールで、継続して利用することで、年間のエネルギー使用の傾向とそれに合わせた対策を立てることができ、家計の無駄に気が付き、節約にもつながるなど、家庭での地球温暖化防止活動の促進に有効な取組である。

□郵送版環境家計簿記帳

概　　要：各家庭からのエネルギー使用報告(3ヶ月毎)に基づき、診断書、診断コメントや類似家庭との比較を作成・送付し、省エネ関連情報を提供するなど、家庭での身近な温暖化防止(エコライフ)の取り組みを推進した。
利用者数：延べ803名(年4回)

□WEB版環境家計簿

概　　要：家庭の省エネポータルサイト「しまねエコビレッジ」内に、WEB版環境家計簿を設置し、登録者が随時家庭でのエネルギー使用量を入力できるシステムにより、使用状況の推移や平均世帯との差異、省エネ対策などのアドバイスなどを閲覧できることで、家庭での身近な温暖化防止(エコライフ)の取り組みを推進した。
利用者数：155名

c　家庭の省エネポータルサイトの見直し

平成25年度に開設した家庭の省エネポータルサイト「しまねエコビレッジ」については、今後は同様の省エネに関する情報提供をしまねエコライフサポートセンターのホームページで包括的に行うこととし、平成28年度末に廃止することとした。それにともない、サイト上で運用していた「Web版環境家計簿」は、各家庭のパソコンでダウンロードして利用できる「エクセル版環家計簿」を新たに制作、配布することで代替した。

□ダウンロード版環境家計簿の製作とPR

概　　要：利用者が「エクセル版環境家計簿」ソフトをダウンロードして、パソコン上で各家庭のエネルギー消費の傾向や省エネ対策効果の見える化を行うことができる。ソフトの配布は、しまねエコライフサポートセンターのホームページに特設ページを設けて平成29年度から開始する。それにともない、システムの周知と利用者獲得のため、利用方法などを紹介するチラシを作成、配布した。
部　　数：5,000部
配 布 先：各市町村担当課、推進員、公民館、子育て支援センター、コンビニ、他。

②COOL CHOICEセミナーの実施

低炭素型の「製品」「サービス」「ライフスタイル」など、地球温暖化対策につながるあらゆる「賢い選択」について知り、誰もが暮らしの中の様々な場面で行動することを促すため、「COOL CHOICEセミナー」を実施した。

□エコドライブ体験

概　　要：ドライブシュミレーターを用い、エコドライブのコツを伝えながら、体験できる機会を設けた。

実施日と場所：(第1回)10月2日(日)　津和野町体育館(津和野町後田)
(第2回)11月2日(水)　イオン松江ショッピングセンター(松江市東朝日町)
(第3回)11月5日(土)　出雲ドーム(出雲市矢野町)
参加者数：59名(第1回25名、第2回4名、第3回30名)

□インテリアの見直しで省エネ！
概　　要：モデルハウスを会場として、インテリアコーディネーターを講師に招き、住宅の省エネ性能を高めるポイントや、簡単に省エネできる家電の紹介に加え、インテリアの色や素材の選び方で省エネにつながることなどを、体験しながら学べる機会を設けた。
実施日と場所：(第1回)11月21日(月)　(株)豊洋暮らしゆうゆう館(松江市学園)
(第2回)12月8日 (木)　リンケンモデルハウス＋R(吉賀町柿木村)
参加者数：39名(第1回14名、第2回25名)

□手軽にとりくめる住宅の省エネ！
概　　要：夏の日ざしや冬の外気の進入を防ぎ、なるべく室内に日差しや外気を入れない工夫をするなど、手軽に取り組め、具体的な住宅の省エネ対策について、一級建築士を講師に招き、住宅の省エネ性能を高めるポイントについて、モデルハウスを実例にして学ぶ機会を設けた。
実施日と場所：(第1回)1月19日(木) (株)豊洋暮らしゆうゆう館(松江市学園)
(第2回)1月25日(水) (株)カルチャープラザ仁多(奥出雲町三成)
(第3回)1月28日(土)　長浜公民館(浜田市熱田町)
参加者数：22名(第1回4名、第2回10名、第3回8名)

□ひとり暮らしのエコ節約術
概　　要：はじめてひとり暮らしを「エコ」の視点から見つめ、電力や買い物のムダ使いを減らすことで、家計だけでなく、環境にも優しい暮らしについて、話合う座談会形式のセミナーを、専門家や現役大学生を交えて実施した。
実施日と場所：11月20日(日)　松江市総合文化ホール(松江市西津田)
参加者数：15名

（３）地球温暖化防止活動推進員の支援

島根県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員という。)は、島根県知事から委嘱を受け、90名(平成29年3月31日現在)が活動しているが、島根県から島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団が、その資質向上のための研修の企画･実施を行うとともに、推進員の支援および協働・連携し温暖化防止活動を行った。

①推進員研修の実施

ａ　啓発ツール作成に関する研修

テ ー マ：「ツールを開発してみよう」
概　　要：地球温暖化をどのように受け手にわかり安く、効果的に伝えることができるか考え、推進員が自らがこれらの普及啓発グッズ製作ができるように、どのような工夫が必要か、ツール開発の専門家からアドバイスをうけながら、具体的なツール作りのポイントを学んだ。

講　　師：藤野　純一(国立環境研究所)
　　森　高一(株式会社森企画)
実 施 日：8月2日(火)
場　　所：島根県民会館(松江市殿町)
参加者数：28名

b　地球温暖化対策に関する研修

テ ー マ：「地球温暖化対策の国際動向と日本」
概　　要：2015年に開催されたCOP21とその後のパリ協定の発効を受けて、国際社会や日本がどのように地球温暖化対策を進めていくのか。COP22に参加した専門家から、最新の動向を聞き、われわれが取り組むべき地球温暖化対策について、考える機会とした。
講　　師：沖村　理史(島根県立大学総合政策学部教授)
実 施 日：12月3日(土)
場　　所：サンラポーむらくも(松江市殿町)
参加者数：58名

c　推進員活動と地域連携について考える研修

テ ー マ：「推進員活動と地域連携ついて考えてみよう」
概　　要：平成28年12月に第8期の推進員が委嘱されたが、それに伴って、地球温暖化についての理解を深めるとともに、推進員活動の有り様について考え、今後地域の多様な主体とどのように連携し、活動を展開していくか、ワークショップ形式で推進員が相互に学びあう機会とした。
講　　師：中平　徹也(津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ所長／元岡山県地球温暖化防止活動推進センター事務局長)
実 施 日：2月23日(木)～24日(金)
場　　所：島根県民会館(松江市殿町)
参加者数：30名

d　スーパー推進員研修

概　　要：「実践活動に学ぼう、そして、もっとつながろう～地域の実践活動に学び、つながりを強めよう～」をテーマとして、各県の推進員が活動を事例紹介し、実践活動のレベルで、類似性や相違点、視点の多様さに気づき、取り入れたいノウハウやツールを発見できる学びあいの場とした。また、他県の推進員と交流を深め、推進員が広域的に活動する素地を養い、ネットワークの強化と活動の活性化を基盤づくりを行った。
実 施 日：9月6日(火)～7日(水)
場　　所：山口県総合保健会館(山口県山口市)
参加者数：61名（うち島根県6名）

②セミナー･テーマ別研修･地域別研修

地球温暖化に関するセミナーへの参加や、個別のテーマや地域別の研修を企画し、推進員がスキルアップを図る機会を提供した。

□セミナー「2050年の地球はどうなってる？」

概　　要：一般向けに企画したセミナーに併せて推進員も参加可能とし、地球温暖化に関する最新の知見について学ぶ機会を提供した。（内容については「地球温暖化にかかる普及啓発(p45)」を参照。）

日　　時：9月3日(土)、4日(日)
参加者数：(東部)　40名(うち、推進員18名)
　　(西部)　26名(うち、推進員6名)

□セミナー「クールチョイスセミナー･ひとり暮らしのエコ節約術」
概　　要：一般向けに企画したセミナーに併せて推進員も参加可能とし、地球温暖化に関する最新の知見について学ぶ機会を提供した。(内容については、「地球温暖化にかかる普及啓発」の項を参照。)
日　　時：11月20日(日)
参加者数：7名

□地域別研修「里山暮らし研究所･里山ハウスの視察」
概　　要：しまねエコライフサポーターズ出雲支部の企画による地域別研修として、雲南市大東町でNPO法人里山笑楽校を主催している多久和厚氏のエコハウス「里山ハウス」を視察し、風力などの再生可能エネルギーや木質バイオマスを活用した暮らしについて、学習した。
講　　師：多久和　厚(NPO法人里山笑楽校)
日　　時：12月20日(火)
場　　所：里山暮らし研究所(雲南市大東町)
参加者数：10名

□外部研修「中国四国から気候変動を考えるワークショップ」
概　　要：環境省が主催した外部研修において、推進員が参加する機会を提供し、地球温暖化の適応策に関する基礎知識について学ぶとともに、ワークショップにより、地域における影響事例を参加者相互に共有し、地域での適応策について学びを深めた。
講師とﾃｰﾏ：畑中　直樹(株式会社地域計画建築研究所／和歌山大学システム工学部非常勤講師)
　　「地域における気候変動影響への適応について」
　　伊藤　麻衣(気象キャスター)
　　「私たちの暮らしと気候変動」
日　　時：3月4日(土)
場　　所：広島YMCA国際文化センター(広島市中区)
主　　催：環境省中国四国地方環境事務所
参加者数：8名

（４）地球温暖化にかかる普及啓発

COP21におけるパリ協定の採択を受けて、これからの地球温暖化防止に対する機運を高めるため、パネル展やセミナーを開催した。また、啓発広報誌を発行し、これらに関する情報発信を行うとともに、普及啓発を行った。

①地球温暖化についてのセミナー

地球温暖化についての最新の知見を学ぶとともに、地域で起こりつつある地球温暖化の事例を取り上げ、地球温暖化が身近に起こっている現象であることを伝える講演会を行った。
テ ー マ：「2050年の地球はどうなってる？」

概　　要：現在わかっている科学的知見に基づいて、地球温暖化の将来予測とその適応策を中心に、第一線の研究者が講演を行った。また、地元講師から農業や海洋生態系など地域における地球温暖化の影響と適応策について、講演を行った。会場内では、地元団体による身近な環境啓発取組をパネル等で紹介し、参加者に実践可能な地球温暖化対策を提案した。

講　　師：(両会場)肱岡　靖明(国立環境研究所地域環境影響評価研究室室長)
「地球温暖化による島根の影響は？」
(東　部)小葉田　亨(島根大学生物資源科学部教授))
「農作物も夏バテ？～作物と高温障害～」
(西　部)坂西　芳彦(国立研究開発法人水産研究・教育機構)
「温暖化で日本海の藻場はどうなるのか？」

日時と場所：(東　部)日　時：9月3日(土)　13:00～16:00
場　所：出雲科学館　(出雲市今市町)
参加者：40名
(西　部)日　時：9月4日(日)　10:00～13:00
場　所：浜田市立中央図書館　(浜田市黒川町)
参加者：26名

②地球温暖化防止啓発パネル展の開催

地球温暖化の現状を伝え、県民による地球温暖化防止活動を促すため、図書館や市役所と連携し、温暖化に関するパネル展を開催した。会場内では身近な省エネ行動を紹介するリーフレットの配布や、温暖化防止活動の提案募集も行った。

□いずも産業フェア

概　　要：地球温暖化問題とCOOL CHOICEを分かりやすく伝えるために、イベントブース内で、啓発タペストリー掲出やリーフレット配布を行った。同じブース内で、エコドライブシミュレーターを使ったエコドライブ講座を併せて行った。(COOL CHOICE:日本が世界に誇る省エネ･低炭素型の製品･サービス･行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動。)

実施期間：11月5日(土)

場　　所：いずも産業フェア(出雲ドーム、出雲市矢野町)

□プリエールフェスティバル

概　　要：地球温暖化問題とCOOL CHOICEを分かりやすく伝えるために、イベントブース内で、啓発タペストリー掲出やリーフレット配布を行った。併せて、リユース食器の普及を呼びかけた。

実施期間：11月20日(日)

場　　所：プリエールフェスティバル(スティックビル、松江市白潟本町)

③地球温暖化防止啓発広報誌の発行

地球温暖化の現状や国内外の情勢、影響と対策、地域での取り組みなど、身近なテーマと関連づけて情報提供を行う広報誌「しまエコ」を、年2回発行した。

概　　要：国が主体となって進める地球温暖化防止に関する国民運動「COOL CHOICE」をテーマとして、島根県の地域性を踏まえた身近でエコな取組や、暮らしの中で気軽にできる行動など、わかりやすく「賢い選択」について知ることができる情報を多様な視点で取りまとめ、提供した。また、印刷にあたっては、環境に配慮し、用紙は国内産の竹100%でできた竹紙を使用し、身近な資源の有効活用を啓発するなどの工夫も行った。

発行部数：6,000部(3,000部×2回)
配 布 先：各市町村担当課･島根県地球温暖化防止活動推進員･県内の環境活動団体、全国及び各県センター、県内図書館およびコンビニエンスストア等
発行テーマ：しまエコ Vol.9［2016年9月発行］
【特集】「あなたも今日からCOOL CHOICE」
【どっちがクール？】照明器具編 蛍光ランプ vs LEDランプ
【くーるちょいす？なんだぁそりゃ～？】松江ゴーストツアー
【エココラム しまねがいいね】見直された離島の可能性 学びの場として田舎を“選ぶ”こと
しまエコ Vol.10［2017年1月発行］
【特集】古くて新しい！竹
【どっちがクール？】暖房編 エアコン vs 灯油ストーブ
【くーるちょいす？なんだぁそりゃ～？】家の女たち 熊谷家住宅
【エココラム しまねがいいね】危機を一転 田舎の交通を支える″路線″が選ばれる

（５）家庭のエネルギー消費実態の把握

日常生活に関する温室効果ガスの排出の実態を把握し、地域における地球温暖化対策に資するため、各種診断及び調査を行い、その結果について行政機関や県民等に情報提供を行った。

①家庭の省エネ診断事業の実施

家庭のエネルギー使用量や地域性、ライフスタイルに合わせてCO_2排出量や光熱費の削減に効果的な対策を具体的に提案する「うちエコ診断」について、実施機関の認定を受け、診断士の登録および診断業務を行った。

□診断の実施

概　　要：県環境政策課、市環境担当課等と連携して受診者を募り、県内5カ所の会場に診断士を派遣し、診断を行った。また、当事務所では、随時診断を受け付け、診断を行った。診断結果に基づき、対策提案を行うとともに、事後調査を実施し、受診者の対策状況を把握した。
実施件数：73件
実施場所：県内6ヶ所(安来市、松江市、大田市、益田市、吉賀町、島根県庁)
削 減 量：53,688kg-CO_2/年(一世帯あたり、942kg-CO_2/年･世帯)
診断士数：15名

②「ライフステージに沿った家庭のエネルギー消費削減モデル」の実施

島根県内の一般家庭において、目指すべきエネルギー消費の削減可能性を推計し、具体的な目標を示すため、世帯別のエネルギー消費実態と削減取組に関する指向を把握するため、中山間地など県内の地域特性をもつ雲南市民を対象にアンケートを実施した。

□アンケート調査の実施

概　　要：雲南市の一般家庭を対象とし、エネルギーの消費動向を把握し、どのような省エネ削減行動を選択し、機器の買い換えなど投資の対象とするか、県民の意識を把握することで、地域における将来的なCO_2排出量の削減ポテンシャルを推計するため、アンケート調査を実施した。調査結果は、エネルギー消費傾向や省エネへの取組意識などを報告概要として取りまとめ、雲南市内の一般家庭に配布し、普及啓発の一助とした。
実施期間：平成29年1月
回 収 数：289件

③全国統一冷蔵庫利用実態調査の実施

日常生活における温室効果ガスの排出実態を把握し、今後の家庭における省エネ関する普及啓発や対策に資するため、全国地球温暖化防止活動推進センターが企画する「全国統一冷蔵庫利用実態調査」を県民を対象に実施した。

概　　要：家庭で利用する家電のうち、もっとも消費電力量が大きい冷蔵庫の利用実態調査を実施した。調査結果は、全国地球温暖化防止活動推進センターが取りまとめた。分析結果は、日常生活に関するCO_2排出量の削減ポテンシャルの把握につながるとともに、今後の地域における省エネ対策等に活用した。

期　　間：平成28年11月～平成29年2月

回 収 数：69件

（６）全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

全国地球温暖化防止活動推進センターに指定されている一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(平成22年8月設立)との連携に努めるとともに、中四国ブロックや他県の地域地球温暖化防止活動推進センターとの共通事業に取り組み、逐次情報交換を行った。

全国センター会議：1回(6月)、東京 、各1名出席

ブロック代表者会議：2回(5月)、東京、各1名出席

合同ブロック別調整会議：2回(4月、1月、2月)、東京、各1名出席

中四国ブロック会議：3回(9月、3月)、岡山市、各1人出席

３．県民の３Ｒ推進事業

家庭から出る生ごみの堆肥化は、可燃ゴミの減量化によりCO_2の排出削減に寄与するとともに、ゴミを生物の力で堆肥化(再資源化)する過程を通じて、自然界における物質循環の仕組みを学ぶ機会になる。コンポスト容器及びミミズコンポストを用いた生ごみ減量手法を周知し、減量効果を測定するモデル事業を下記のとおり実施した。

（１）コンポスト容器による生ごみ減量と効果測定

□講演会

概　　要：『生ごみ ダイエット！』と題し、買い物や調理時の工夫、生ごみの分別による利活用と廃棄方法などに、家庭における生ごみ減量の呼びかけを行った。

講　　師：野崎　研

実施日と場所：平成28年 7月26日(火)　　出雲エネルギーセンター(出雲市芦渡町)
平成28年11月 1日(火)　　カルチャープラザ仁多(奥出雲町三成)
平成28年11月30日(水)　　川向リサイクルプラザ(松江市竹矢町)
平成29年 2月 4日(土)　　パレット江津(江津市江津町)
平成29年 2月14日(火)　　田所公民館(邑南町下田所)

□生ごみ減量の実践と計量

概　　要：上記の講座参加者から生ごみコンポストの設置と生ごみ計量の取組への協力者を募り、一定期間生ごみ減量効果を測定した。

期　　間：平成29年2月～3月

取 組 者：江津市民　2名

結　　果：総削減量 44kg

（２）ミミズコンポストBoxによる取組

□講演会

概　　要：話題提供『自然とミミズとふれあって 学んだこと～子ども達の教育実践報告～』及び意見交換『ミミズコンポストと園児のふれあい』を開催し、ミミズコンポストの取組参加者を募った

講　　師：石橋美冬(公益財団法人科学教育研究会　理事)

実 施 日：平成29年3月7日

場　　所：グラントワ(益田市有明町)

□県外の先進地視察

概　　要：講義『ミミズの適正管理と害虫対策』と施設見学及び小学校と連携した環境教育の取り組みについて意見交換を行った。

講　　師：久保幸路(光和商事株式会社 環境開発事業部部長)

実 施 日：平成28年12月5日

視 察 先：生ごみ減量用ミミズ養殖施設等㈱光和商事(東広島市河内町)

□保育園等への設置

概　　要：職員及び園児向けに生ごみを堆肥にかえるみみずの働きとミミズコンポストBoxを使った生ごみ減量を説明し、ミミズコンポストBoxを設置して、各園で生ごみ減量に取り組んだ。

実施日と場所：11月 2日(水)　　まるに保育所(益田市白上町)
　　11月14日(月)　　吉田こども園(益田市水分町)

□生ごみ減量の実践と計量

概　　要：設置したミミズコンポストBoxを用いて、実際に生ごみを投入し、一定期間の生ごみ削減量を計量した。

実 施 日：平成28年2月～平成29年2月

取 組 者：益田市民等　5名

結　　果：総削減量　147kg

□意見交換会

概　　要：ミミズコンポストBoxの設置の希望調査、環境教育ツール(循環型社会、ミミズと生態系)作成に関する検討を行った。次年度は、益田市内の幼稚園･保育園向けミミズコンポストBox設置数を増やし普及をはかることとした。

実 施 日：平成28年4月25日、6月2日、7月6日、8月23日、10月12日、
　　平成29年2月1日、3月23日

場　　所：益田市役所、市民学習センター及び現地(益田市白上町)

（３）ミミズコンポストBOXによる生ごみ減量と効果測定

□家庭での生ごみ減量啓発タペストリーの製作

概　　要：家庭における生ごみ減量について、買い物や調理時の工夫、生ごみの分別による利活用と廃棄方法などについて、わかりやすいイラストを用いたタペストリーを作成し、普及啓発のための貸出グッズとして活用した。

制 作 物：生ごみをへらそう「どうしてごみはくさい？」
　　生ごみをへらそう「いただきますのその前に！」
　　生ごみをへらそう「ごちそうさまのその後に！」

４．環境保全活動支援

（１）情報収集及び情報提供

県民のニーズに考慮した環境関連ライブラリーや環境学習機材の整備等を図るとともに、各種メディアやホームページ、環境イベント、三瓶自然館広報誌「さんべ発」などを利用し、年間を通じて県民に情報提供を行った。

貸出図書の購入　　15冊
パネル、機材の貸出　　9回

（２）地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働・連携をすすめ、行政や環境団体とともに、活動の企画･運営･支援等を行った。

①アクアスESDプログラム実証事業への参画

環境省が実施する「地域の環境教育･学習拠点での「ESD化」に向けた実践拠点支援事業」において、しまね海洋館アクアスを拠点施設として、沿岸地域における海の環境学習のESD化を目指すプログラムに参画した。(ESD：接続発展教育)

概　　要：「石見の海、私たちの海の持続性」をテーマとして、ESDプログラムを企画･実施できる人材の育成を行うため、研修会を企画するワーキングチームを立ち上げ、研修会を実施した。また、研修会参加者が中心となって、地域において海のESDプログラムを継続して実施していくとともに、相互に連携をとって活動を行っていくため、ネットワーク作りを行った。
実施期間：平成28年9月～平成29年2月
場　　所：しまね海洋館アクアス(浜田市久代町)
講　　師：志賀誠治(ひろしま自然学校)、原明子(ESDコーディネーター)、河野宏樹(環境教育事務所Leaf)、今宮則子(NPO法人海の自然史研究所)
対　　象：教員、公民館主事、行政職員、環境団体スタッフ等
参加者数：20名
事業主体：環境省、公益財団法人しまね海洋館
連携団体：浜田市、江津市、江津市郷田小学校、島根県水産技術センター、NPO法人コアラッチ

②雲城地区ハッチョウトンボを通したESD学習の支援

平成27年度に実施した環境省ESDプログラム実証事業の事業を継続するため、金城町公民館が主体となり、ハッチョウトンボの生息地保全をテーマとしたESDを実施し、これら事業の支援を行った。

概　　要：浜田市金城町雲城地区生息するハッチョウトンボの保護･保全活動をテーマに、地域住民と小学生が協働で進める「ようせいの守人プロジェクト」を立ち上げ、各主体が連携しながら、地域で持続可能な活動のしくみづくりを行った。
実施期間：平成28年5月～平成29年2月
場　　所：浜田市金城町雲城地区
対　　象：雲城地区の小学生および地域住民
事業主体：雲城公民館、雲城ハッチョウトンボを守る会、雲城小学校
連携団体：浜田市環境課、浜田高校自然科学部

③アクアスわくわくフェスタの支援

私たちの生活によって排出されるゴミが海洋を汚染している実態を知ってもらうとともに、ゴミを減らすことが海洋汚染を防ぐことにつながるだけでなく、生活の中で再利用することで省資源につながることを、体験しながら知り、学べる機会を提供するイベントに共催として関わり支援した。

概　　要：水族館来館者を対象に、貝殻などのさまざまな自然の漂着物や漂着ゴミを展示することで、自然の豊かさや多様性と、人間が排出するごみが海の汚染を引き起こしていることを知る場を提供するとともに、漂着物を使ったネイチャークラフトを行った。
実 施 日：9月27日(土)～9月29日(月)
場　　所：しまね海洋館アクアス(浜田市久代町)
参加者数：15,000名
主　　催：公益財団法人しまね海洋館アクアス
共　　催：浜田市環境課

（３）スタッフの講師派遣

県内の学校や環境団体などを対象に、ニーズに応じてテーマを設定し、環境に関する講演会やワークショップなど、スタッフを講師として派遣した。

□島根県エコリーダー研修

実施日と場所：5月10日(火)　大田集合庁舎(午前)、浜田合庁(午後)
5月11日(水)　益田合庁
5月13日(金)　県庁6階
5月17日(火)　出雲合庁
5月18日(水)　松江合庁
対　　象：島根県職員
参加者数：206名
講　　師：葭矢崇司、野崎研、伊藤玲子、石原香織

□川跡ビオトープ友の会自然観察会

実 施 日：5月22日(日)
場　　所：川跡ビオトープと周辺小河川(出雲市中野町)
参加者数：20名
講　　師：野崎　研

□大社小学校総合学習(環境)授業

実施日とテーマ：6月 7日(火)　「ビオトープ池はきれい？」
6月28日(火)　「植物と環境」
7月12日(火)　「ゴミになる？餌になる？」
10月7日(金)　「自然の環境調べ」
1月20日(月)　「子どもの環境宣言」
場　　所：大社小学校(出雲市大社町)
対　　象：小学校4年生
参加者数：52名
講　　師：野崎　研

□松江北高校グローバル課題研究領域別講演会

実 施 日：7月13日（水）
場　　所：松江北高等学校（松江市奥谷町）
場　　所：「地球はこれからどうなるの？　～地球環境問題を解決するためのヒントを探る～」
対　　象：普通科2学年
参加者数：26名
講　　師：葭矢　崇司

□浜田高校「HIKARU」授業（HIKARE：人間教育を目指し、企業や識者の交渉等を行うキャリヤ教育）

実 施 日：9月20日（火）
場　　所：浜田高等学校（浜田市黒川町）
対　　象：高等学校2学年
テ ー マ：「″環境″に関わる職業に就くこととは？」
参加者数：32名
講　　師：葭矢　崇司

□とっとりエコサポーターズ総会コーディネーター派遣

実 施 日：10月1日（土）
場　　所：ソースバンケット（鳥取県鳥取市）
対　　象：鳥取県地球温暖化防止活動推進員
テ ー マ：「スーパー推進員研修を振り返って･･･」
参加者数：25名
講　　師：葭矢　崇司

□子育て＆子育て支援の為の講座「eco cafe in わくわくらんど」

実 施 日：10月28日（金）
場　　所：鹿島子育て支援センター（松江市鹿島町）
対　　象：鹿島子育て支援センター利用者
テ ー マ：「おうちのeco　どうしてる？？」
参加者数：46名（保護者21名、乳幼児25名）
講　　師：石原　香織

□松江農林高校「産業と人間」特別講義

実 施 日：3月3日（金）、3月17日（金）
場　　所：松江農林高等学校（松江市乃木福留町）
対　　象：総合学科1学年
テ ー マ：「地球規模で起こる環境問題」
参加者数：各回21名
講　　師：葭矢　崇司、野崎　研

（４）環境団体等への協力および支援

県内の行政機関や環境団体等が実施する事業について、ニーズに合わせて多様な協力および支援を行った。

□相　　談　環境保全や温暖化防止についての相談
　　(行政機関)50件
　　(そ の 他)15件

□事業協力　エコイベント等の出展
　　(行政機関が実施)　4カ所
　　(民間団体が実施)　2カ所

（５）人材育成(環境アドバイザー派遣)事業

地域住民や民間団体等が行う環境保全･温暖化防止に関する意識啓発、学習を促進するために、その指導者として専門分野別に「しまね環境アドバイザー」18名(任期1年)を委嘱、配置し、県内各地からの要請に応じて環境講座や地域ボランティアの育成及び実技指導を行った。特に、県環境政策課と連携を図り、学校への派遣を充実させた。

□委　　嘱　18名(地球環境11名、地域環境12名、生活環境9名、エネルギー8名(重複あり))

□派　　遣　直接派遣　47回(うち学校24件)、紹介派遣6回

（６）環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による環境保全･地球温暖化防止を目的とした主体的な取り組みを促すため、活動の開始、または、継続に要する資金の一部を助成した。本年度は、当初募集では、応募団体が少なかったため、二次募集を行った。

助成内容：ボランティア団体、NPO法人等：事業費の2/3以内助成で、80万円限度

募　　集：(一次)4月 1日～5月2日
　　(二次)6月16日～8月1日
　　※当初の助成決定額が予算を下回ったため、2次募集を行った。

広　　報：(一次)募集チラシ及び申請の手引きの配布 2,500部
　　(二次)募集チラシ及び申請の手引きの配布 1,500部

説 明 会：4月に6会場(隠岐、松江、出雲、大田、浜田、益田)、9月に3会場(松江、浜田、隠岐)において助成金合同説明会を開催。

審 査 会：(一次)6月15日に審査員4名により審査を行った。
　　(二次)9月 8日に審査員4名により審査を行った。

	申請件数 (件)	申請事業費 (千円)	申請助成額 (千円)	交付決定件数 (件)	助成決定額 (千円)
1次募集	12	3,540	2,347	4	591
2次募集	2	677	451	2	451
計	14	4,217	2,798	6	1,042

Ⅳ．北の原キャンプ場管理運営事業

本年度は、大田市から指定管理者として指名されて2期目5年間の2年目であり、引き続きケビンとテントサイト、ペット同伴バンガロー、ドッグランの管理運営を行った。県有施設時代からの運営で蓄積されたノウハウを活かして安定した管理運営にあたるとともに、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、一体的な事業展開、PRにより過去最大級の収入を果たした。

基本理念である「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」を実現するために、国立公園三瓶山の豊かな自然環境と、その自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出し、来場者が自然の中での生活～アウトドアライフ～を楽しめるような管理運営に心がけた。

来場者の安全・安心への配慮を欠かすことなく、キャンプ初心者から中級者向けのイベントや、キャンプ用品の貸出、食材の提供など、これまでに培ったノウハウを活かしながら、新たな魅力づくりにも心掛けた。また、国立公園の中にあるキャンプ場として、中国地方屈指の規模を活かして、利用の拡大を図るとともに、三瓶山観光の拠点施設として、三瓶自然館とともに大田市観光を牽引する役割を果たせるように努めた。

１．利用促進業務

大田市、飯南町、美郷町で作る「三瓶山広域ツーリズム振興協議会」に参画し、三瓶エリアの主要なキャンプ場としてPRを行った。特にアウトドアメーカー「モンベル」の店舗を活用したPRイベント「三瓶フェア」を当財団が担当し、出展を企画･実施して、キャンプ場の知名度向上を図った。

また、西部勤労者共済会、モンベル、スポーツ量販店等と提携した各種割引企画を継続し、新規顧客の開拓にも努めた。

主な広報活動の実施内容は次のとおり。

・広島で開催された「島根ふるさとフェア2017」では、大田市観光協会と連携し、特設の石見銀山世界遺産登録10周年記念ブースにて、パンフレット配布などのPRを実施した。2日間で10万人以上の来場者があり、広島という最大の市場で有効な広報活動ができた。
・自社HP及び提携キャンプ関連HPに、ドッグランやイベントの紹介を掲載。
・ツイッターを活用し、最新の三瓶とキャンプ場情報を発信。
・島根県の観光情報サイト「島根情報ナビ」のアウトドアコーナーへの情報掲載。
・山陰中央新報「りびえ～る」の全面記事と広告の掲載。
・山陰中央新報「あ･るっく」への広告掲載。
・地元ケーブルテレビに出演し、ケビン宿泊と鍋のセットプランと歩くスキーをPR。
・松江市、出雲市の大型スポーツ用品店5店舗のキャンプコーナーに、パンフレットの配布継続。
・県内集客イベント「石見肉まつり（江津）」に出店し、1.4万人以上にキャンプ場をPR。
・大田市民を対象とした無料モニターを実施した。市のHPや自治会への回覧での周知を図り、施設の認知度向上に繋がった。

２．管理体制

利用者が快適なアウトドアライフを過ごせるよう、特に愛犬家も利用しやすい施設となるよう配意し、スタッフの人員配置を行った。

通常期はスタッフ7名の体制により、利用者の対応、施設･設備の安全点検及び環境美化等に万全を期している。また、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、雑草により景観を損ねないよう配慮した。

利用者が増加する繁忙期はさらに4～8名程度増員し、宿泊施設の清掃、場内トイレ･シャワー棟の清掃、大量に排出されるゴミの処理等に当らせ、衛生管理を徹底した。

一方、利用者が激減する冬期間は正規職員スタッフ4名ですべてを対応し、人件費の節減と適正な人員配置に努めた。

３．施設維持管理

キャンプ場開設以来47年が経過しており、施設･設備の老朽化、経年劣化に伴う故障や不具合が多発している。大田市と協議を重ね修繕計画に沿った修繕作業を実施しているが、予期せぬ箇所の故障が続発するなど、修繕が追いつかない状況にある。今後も継続して発生することが懸念され、早急の課題となっている。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生したが、利用者の快適で安全な利用を第一に、必要最低限の修繕を実施した。

主な修繕個所と修繕内容は次のとおり。

・ケビン床下、外壁・内壁給湯配管交換
・除雪機動力部及び可動部…部品交換
・管理棟入り口自動ドア駆動装置一式…部品交換

４．利用状況及び収支状況

利用者が料金の高額なケビンとバンガローと一番安価な一般サイトを好む二極化の傾向が現れた。特に、ケビン、バンガローが着実な増加となったため、年間累計では、オートサイト設置後で最も多い売上金額を確保した。

一方支出関係においては、修繕費の増加やケビン、バンガローの利用増に伴う清掃委託費の増加により、収支状況は厳しいものとなったが、経費削減を徹底することにより、最低限の利益を確保した。

５．自主事業

（１）イベントの実施

□家族で楽しむキャンプ･セミナー

期　日：5月21日(土)～5月22日(日)

参加者：10組40人

内　容：キャンプ初心者家族を対象に、テントの設営・撤収方法、火のおこし方、飯ごう炊さんの仕方を指導し、1泊の体験キャンプを行った。丁寧で実践的な指導に、参加者から高い満足度を得た。

（２）他イベントへの会場提供

□ノルディックウォーク

三瓶自然館が企画したイベントと連携し、会場の提供及びノルディックポールの貸し出しを行った。普段キャンプに縁のない参加者や、初めて訪れる参加者も多く、新たな客層に効果的なキャンプ場のPRになった。

□北の原ファンタジー

三瓶自然館の冬の人気イベント「北の原ファンタジー」と連携し、県内外から集まった親子連れ350名以上に、暖かい食事場所や外遊びを楽しむ会場を提供した。

（３）利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食品の販売や、キャンプ用具の貸し出しを行った。

６．その他の事業

（１）地域と連携した観光振興に関する事業

国民宿舎さんべ荘と連携し、県内外から訪れたキャンプ場宿泊者に温泉割引券を配布し、多くの利用者が三瓶温泉を利用した。

（２）大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

セントラルロッジ内に観光情報コーナーを設置し、大田市観光MAPを掲示し、キャンプ場宿泊者の観光案内を積極的に行った。登山者への登山ルートの案内をはじめ、温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介などを行った。

（３）三瓶広域ツーリズム振興協議会への参画

大田市、美郷町、飯南町1市2町および関係団体で構成される協議会に参画し、モンベル広島紙屋町店･岡山店で開催された「三瓶山フェア」において、キャンプを含む三瓶山エリアでのアウトドアをPRした。

Ⅴ．利便提供事業

１．物販事業

（１）三瓶自然館

ミュージアムショップ「ひめのが」では、自然科学に関連する商品やキャラクター「テンピー」を用いた商品、三瓶山来訪の記念になる土産的な商品を販売した。

また、企画展の開催時などは、展示の内容と商品構成との連動を図った。夏期は企画展のテーマ「中生代の海」にあわせて、アンモナイト化石や海生は虫類の歯の化石、関連書籍などを、秋は木のおもちゃ展にあわせて、木のおもちゃを特集して、売上げの増加を図った。

（２）三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材（発掘時に出土した倒木等）を利用した独自商品のほか、近隣の製菓子店と共同開発したクッキーなどの販売を行った。

従来、派生材を利用した商品が中心であったが、良質な材料の在庫が少なくなったことで商品種数が限られるようになっている。そこで、鉱物や岩石などの商品を導入して商品構成が貧弱にならない工夫を行った。

（３）三瓶北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ北の原」では、宿泊者の利便向上を目的に、キャンプに関連する商品と食料品を販売した。また、夏期はバーベキュー、冬期は鴨鍋の食材セットを販売することで、手軽にキャンプができるイメージによる施設利用の促進を図った。

２．貸出事業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸し出しを行った。用品の貸し出しは、売上による収入のほか、利用者が用品を準備する負担が軽減されることによる利用拡大が期待される事業である。

キャンプ用品のほか、夏期はノルディックポール、冬期は歩くスキーとスノーシューの貸し出しを行った。

Ⅵ．各 種 資 料

１．数値目標を掲げた運営

（１）入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。三瓶自然館では、夏期企画展で取り上げた海の恐竜が人気を集め、前年実績を上回ったものの、高く設定していた目標を達成することはできなかった。

埋没林公園は、広島や全国放送のメディアに数回取り上げられたこともあって、目標にはわずかに届かなかったが、前年実績を上回ることができた。

北の原キャンプ場は前年度からの好調を維持しており、高く設定した収入目標をさらに上回った。

（２）全施設の目標値と達成状況

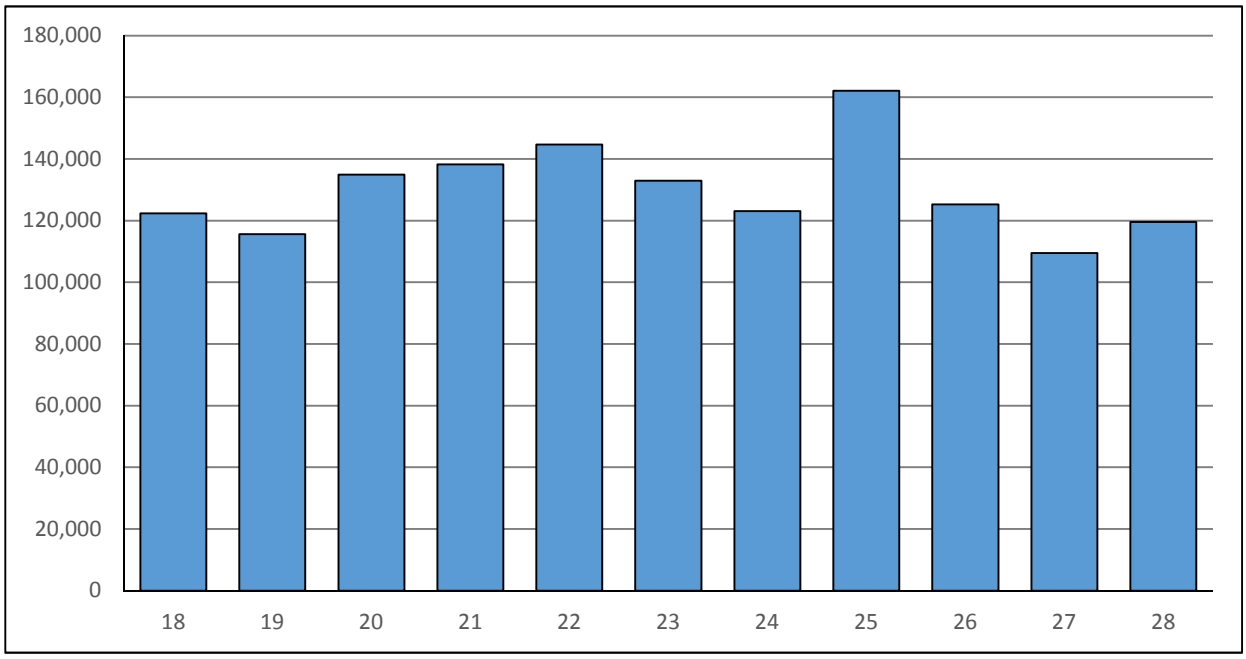
平成28年度　施設別月別目標達成率一覧表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三瓶自然館（天体含む）入館者数(人)	H28目標	5,000	15,000	5,000	20,000	38,000	20,000	12,000	6,000	2,000	4,000	4,000	4,500	135,500
	H28実績	6,031	13,139	4,357	17,161	33,756	15,595	9,883	6,715	1,950	4,112	2,910	3,962	119,571
	達成率	120.6%	87.6%	87.1%	85.8%	88.8%	78.0%	82.4%	111.9%	97.5%	102.8%	72.8%	88.0%	88.2%
天体観察会入館者数(人)	H28目標	700	1,300	700	1,300	2,200	1,400	800	100	100	100	100	200	9,000
	H28実績	604	1,269	496	1,683	2,209	766	527	266	109	269	186	79	8,463
	達成率	86.3%	97.6%	70.9%	129.5%	100.4%	54.7%	65.9%	266.0%	109.0%	269.0%	186.0%	39.5%	94.0%
埋没林公園入園者数(人)	H28目標	1,500	3,000	1,700	2,000	3,500	3,000	2,500	2,500	400	300	300	1,000	21,700
	H28実績	1,689	3,343	1,326	2,339	3,252	1,880	2,579	2,452	440	479	327	969	21,075
	達成率	112.6%	111.4%	78.0%	117.0%	92.9%	62.7%	103.2%	98.1%	110.0%	159.7%	109.0%	96.9%	97.1%
キャンプ場利用料金(千円)	H28目標	700	2,600	700	2,500	6,000	2,600	1,241	700	200	200	200	200	17,841
	H28実績	1,459	2,569	943	3,048	6,505	1,623	1,668	747	191	313	187	282	19,535
	達成率	208.5%	98.8%	134.6%	121.9%	108.4%	62.4%	134.4%	106.7%	95.3%	156.4%	93.7%	140.9%	109.5%
物販・貸出売り上げ(千円)	H28目標	700	2,450	830	2,950	6,220	2,430	1,120	1,150	380	480	440	550	19,700
	H28実績	1,223	2,245	738	3,717	6,938	2,406	1,632	832	428	358	287	605	21,410
	達成率	174.8%	91.6%	88.9%	126.0%	111.5%	99.0%	145.7%	72.3%	112.7%	74.6%	65.3%	109.9%	108.7%

２．利用者数の推移

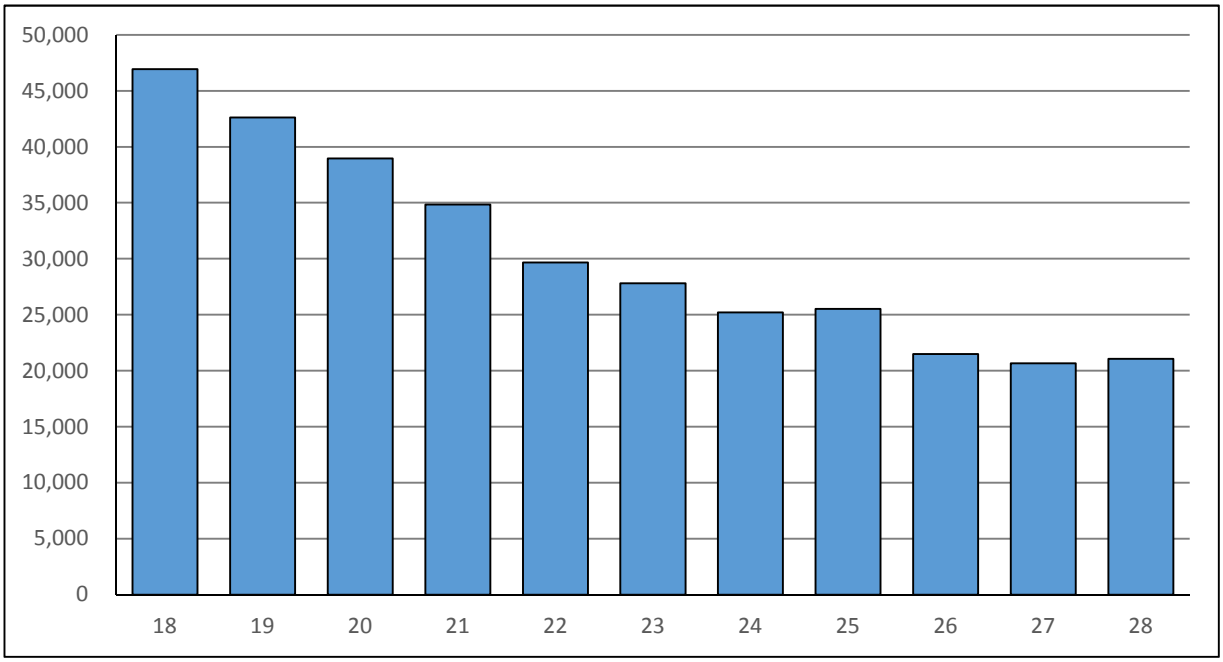
□三瓶自然館

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
総入館者(人)	122,308	115,601	134,956	138,231	144,629	132,991	123,093	162,099	125,225	109,478	119,571



□三瓶小豆原埋没林公園

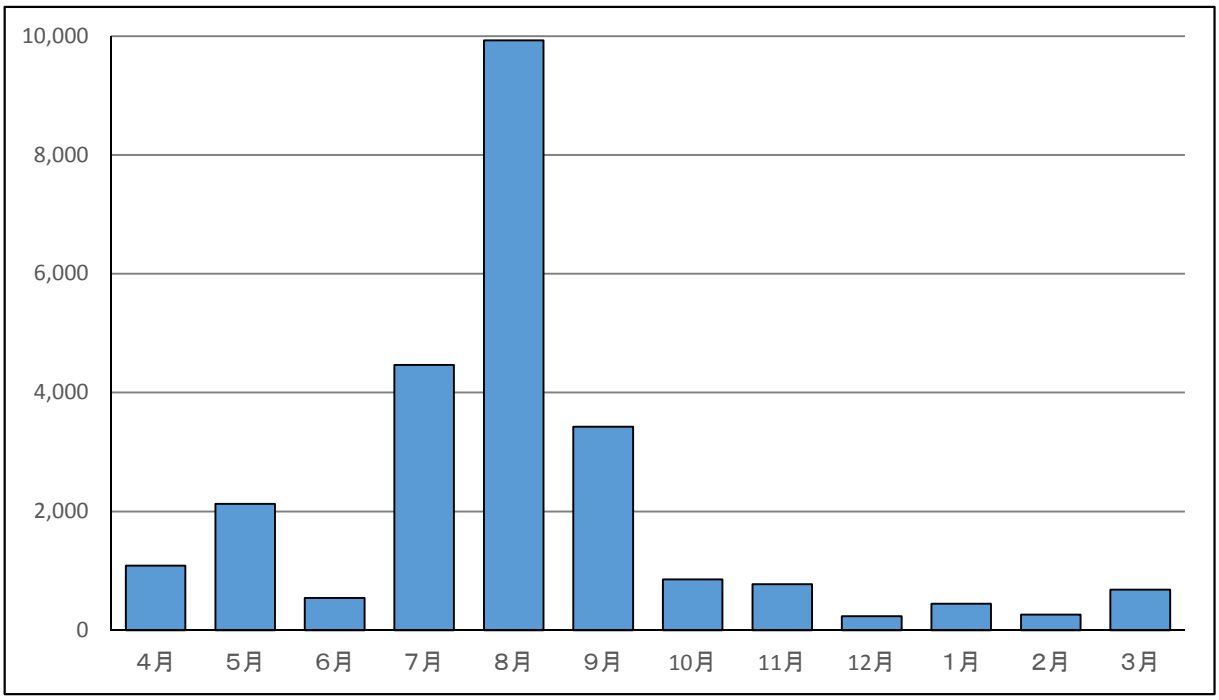
年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
総入館者(人)	46,943	42,625	38,948	34,846	29,669	27,807	25,206	25,527	21,505	20,681	21,075



（３）収入実績

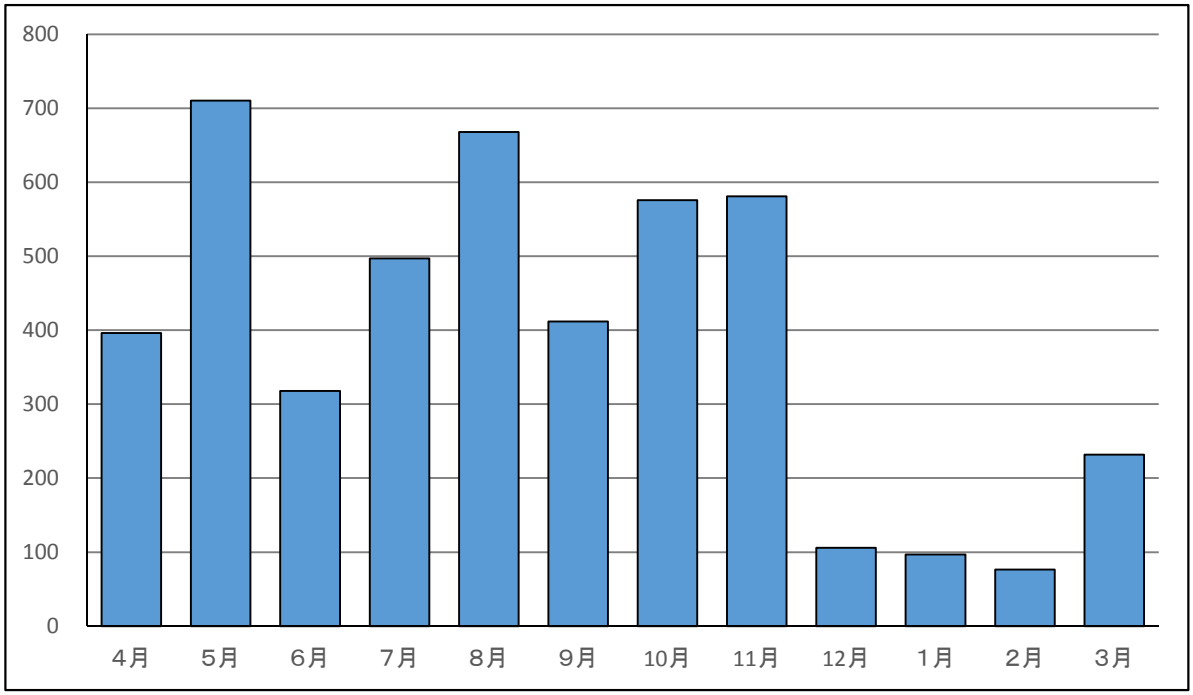
□三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,084	2,125	542	4,466	9,928	3,428	858	775	236	447	262	682	24,833



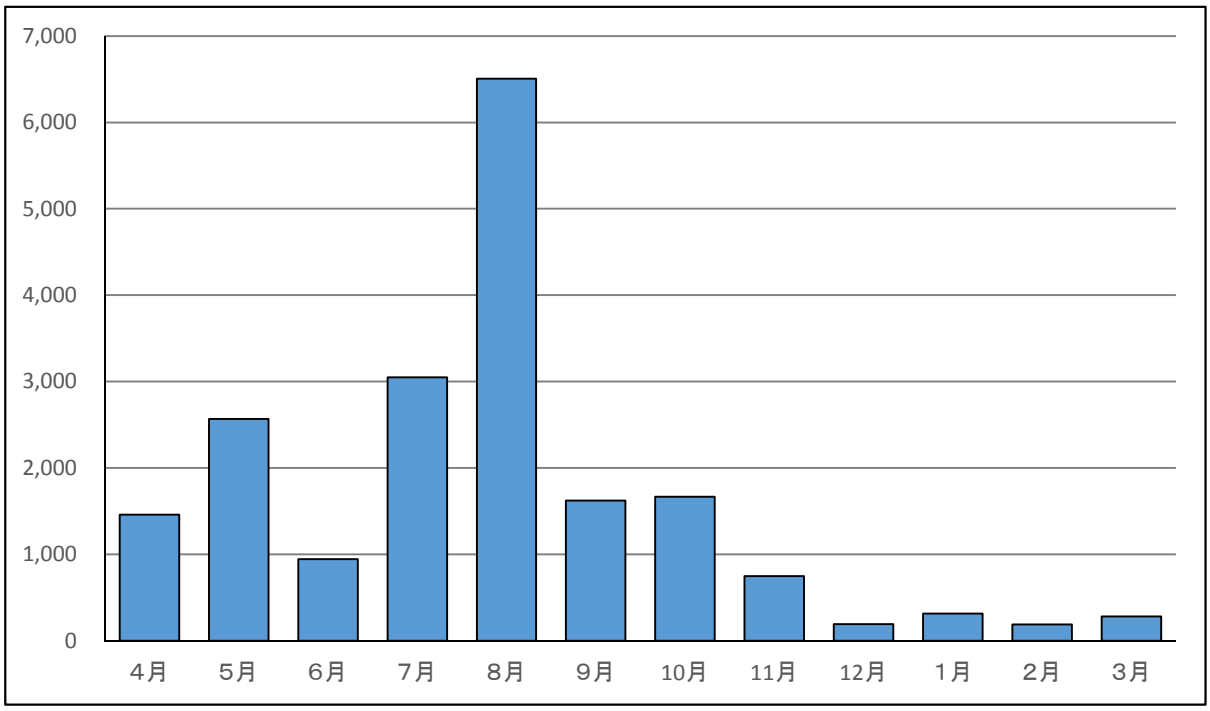
□埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	396	710	318	497	668	412	576	581	106	97	77	232	4,669



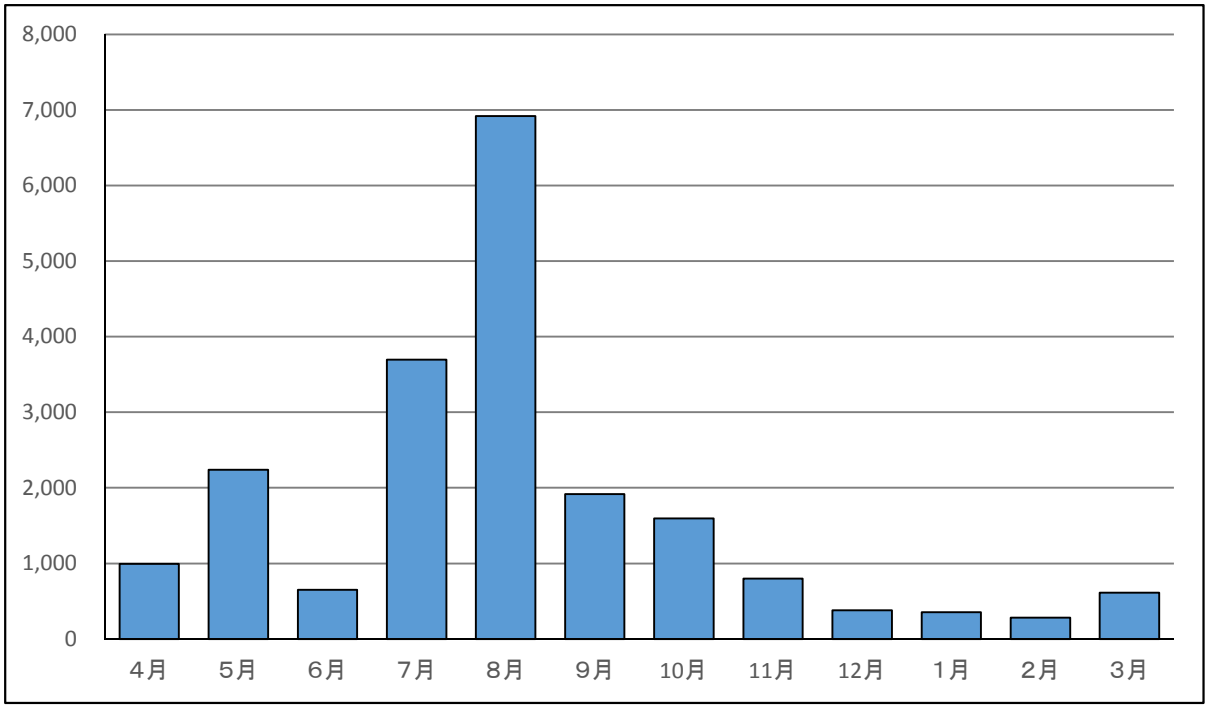
□北の原キャンプ場収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,459	2,569	943	3,048	6,505	1,623	1,668	747	191	313	187	282	19,535



□利便提供事業収入状況

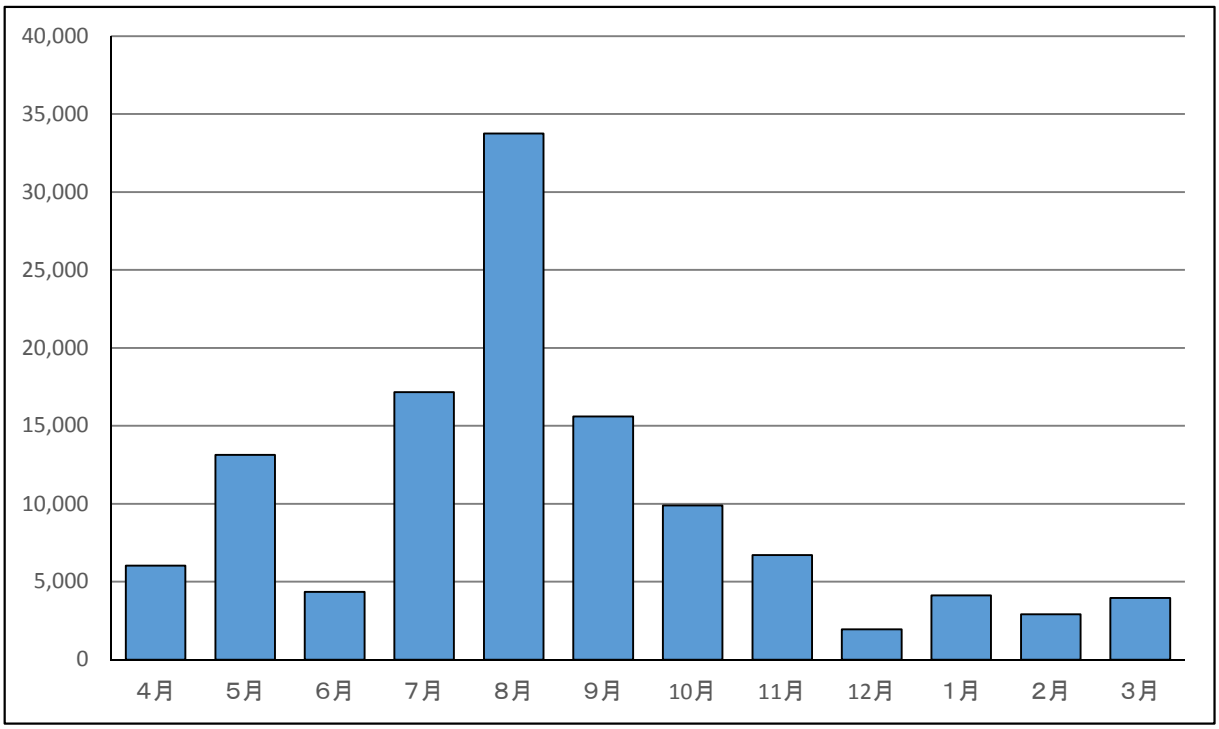
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	992	2,239	650	3,697	6,918	1,916	1,595	800	378	356	283	613	20,437



（４）利用者数

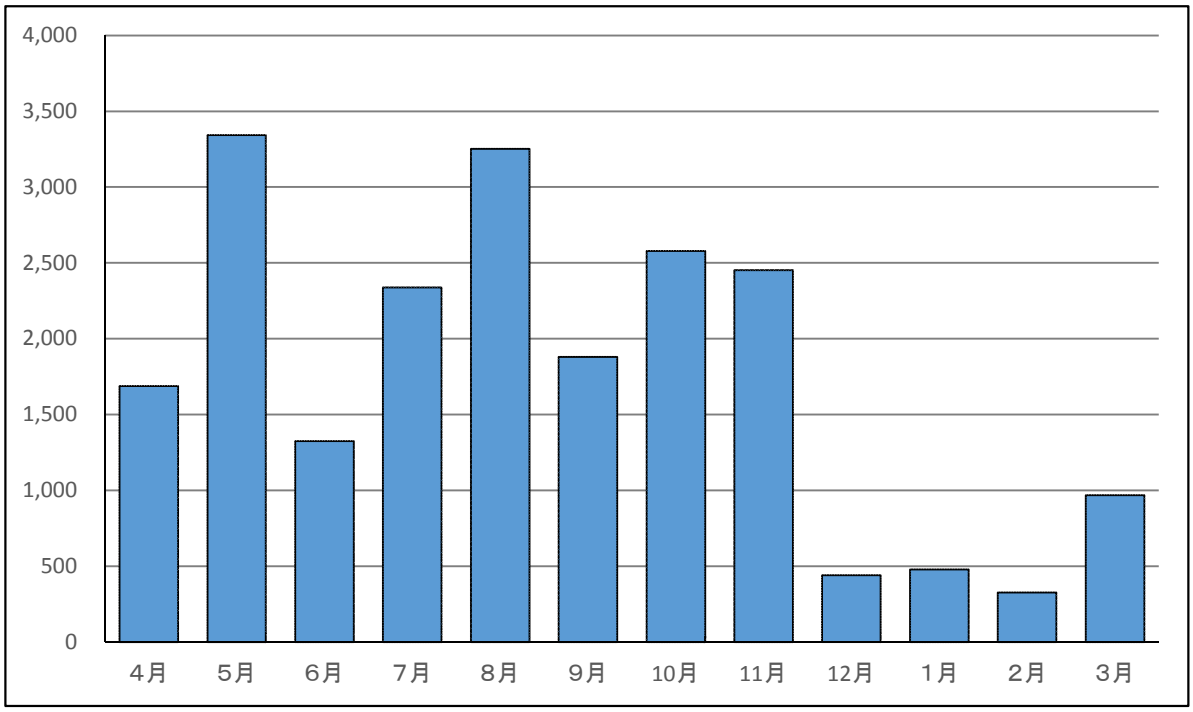
□三瓶自然館利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	6,031	13,139	4,357	17,161	33,756	15,595	9,883	6,715	1,950	4,112	2,910	3,962	119,571



□埋没林公園利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	1,689	3,343	1,326	2,339	3,252	1,880	2,579	2,452	440	479	327	969	21,075



3．沿　革

昭和63年度　「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。

平成元年度　「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。
三瓶自然館（以下「自然館」）中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。

平成２年度　自然館及び附属施設、着工。

平成３年度　財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立（7月1日、以下「財団」）。
自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。
自然館オープン（10月19日）。

平成４年度　財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場（以下「キャンプ場」）」の管理運営を受託。

平成５年度　三瓶フィールドミュージアム整備終了。
三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画（1994～2010年）の戦略プロジェクトに位置づけられる。

平成７年度　島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。

平成８年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。
キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。

平成９年度　自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱（平成15年度まで）。
常陸宮殿下、妃殿下御来館。

平成10年度　三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。

平成11年度　島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。

平成12年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。
キャンプ場新管理棟（セントラルロッジ）、完成。
三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。

平成13年度　島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。
自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。

平成14年度　自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン（4月18日）。
自然館、通算100万人の来館者を達成。
秋篠宮殿下、妃殿下御来館。
小豆原埋没林現地の公園化整備開始。
自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。

平成15年度　キャンプ場へ利用料金制導入。
新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。
「三瓶小豆原埋没林公園（以下「埋没林公園」）」オープン（5月2日）。
自然館、日本博物館協会に加盟。

平成16年度　「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定（2月27日）。
新たに「ふれあいの里奥出雲公園（以下「ふれあいの里」）」の管理運営を受託。
埋没林公園来園者10万人達成。

平成17年度　指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる（平成17年度～平成21年度）。

平成18年度　7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。
自然館開館15周年（10月19日）。

平成19年度　高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪（4月30日）。

平成20年度　旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承（4月1日）。
松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始（4月1日）。
埋没林公園入園者30万人達成（4月12日）。
法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称（7月1日）。
高円宮妃殿下御来館（1月22日）。

平成21年度　自然館、通算200万人の来館者を達成（7月12日）。
ふれあいの里、営業終了（12月。3月をもって正式閉鎖）。
自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止（12月～3月）。3月末から新型プラネタリウムの運営開始。
キャンプ場、大田市へ売却譲渡（3月）。

平成22年度　島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また、大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける(いずれも平成22年度～平成26年度)。

平成23年度　財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。

自然館、開館20周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。

財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置(8月1日)。

平成24年度　神々の国しまねプロジェクトへの協力として、三瓶自然館の小中高校生入館料を無料化(平成26年9月まで)。

"三瓶山"国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局を務め、一年を通じて関連イベントを開催。

平成25年度　埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。

特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日～9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては過去最高となる99,203人の来館者を達成。

財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。

平成26年度　大田市から北の原キャンプ場指定管理者として指名を受ける(平成27年度～平成31年度)。

島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度～平成34年度)。

平成27年度　自然館、大型ドーム映画設備更新のため、ビジュアルドームの運営を休止(2月～3月)。3月末から新映画設備の運営開始。

平成28年度　自然館、大型ドーム映画リニューアル式典(4月21日)。

自然館、開館25周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。

自然館、入館者累計300万人を達成(11月5日)。

4．関連記事

石見

西部本社
益田総局 TEL0856(22)1800 江津支局 TEL0855(52)3347
大田支局 TEL0854(85)9095 浜田支局 TEL0855(22)1978 川本支局 TEL0855(72)0310
邑南駐在 TEL0855(95)0530

映像システムリニューアル
三瓶の自然より美しく
サヒメル

鮮やかな映像を楽しむ出席者ら

大田

大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルの「ビジュアルドーム」に、新しい映像システムの「レーザー光源プロジェクター」が導入され、同館で21日、記念式典があった。従来よりも高解像度で自然の風景などを映写でき、出席者が早速、美しい映像を楽しんだ。

ビジュアルドームでは、プラネタリウムや三瓶山周辺の自然をテーマにした映像などを直径20㍍のドームで上映。県や同館が、より美しく鮮やかな映像を楽しんでもらおうと、従来のフィルム映写機を更新した。同プロジェクターは、他の光源に比べて明るく、発色に優れている。

今年2月から設置作業を進め、3月に完了した。映像システムとドーム改修の総事業費は約7千万円。

式典には、県や市の関係者や、地元の北三瓶小学校の児童ら約50人が出席。県環境生活部の犬丸淳部長は「これまでよりも鮮明でリアルな映像を楽しんでいただける」とあいさつ。テープカットの後、三瓶山の自然や生物の魅力を伝えるオリジナル番組「さんべ自然紀行」が上映された。

臨場感あふれる映像を楽しんだ同校3年の大前実優さん(8)は「三瓶の自然を感じることができた」と笑顔で話した。（松浦光芳）

山陰中央新報　H28.4.22(金)

貴重な動植物標本並ぶ
サヒメル 寄贈された2000点

展示された剝製に見入る来場者

大田

チョウや鳥の標本などを紹介する企画展「サヒメルは宝箱」が、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで開かれ、来場者が貴重な展示品に見入っている。22日まで。

県内の研究者やアマチュアのコレクターから寄贈を受けた標本を知ってもらおうと、同館の開館25周年となる今年の春期展示会として企画した。

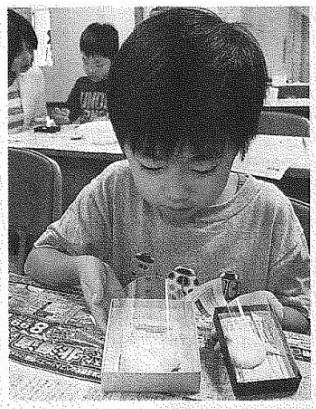
会場では、植物や昆虫の標本、トナカイやオオカミの剝製など約2千点を展示している。県内の植物研究の第一人者だった故・枳村喜則氏が集めたリュウキンカやミツガシワなどの押し葉標本のほか、南米に生息し鮮やかな青色の羽を持つモルフォチョウの標本が並ぶ。1930年代に採集された国の天然記念物のクマゲラの標本などもあり、訪れた家族連れらが興味深そうに見ている。

期間中の日曜日は学芸員がギャラリートークを行う予定で、同館の井上雅仁学芸員は「標本収集や整理の苦労話、寄贈者とサヒメルとの関わりなどの説明も楽しんでほしい」と話した。

同館は毎週火曜日が休館。（松浦光芳）

山陰中央新報　H28.5.12(木)

アンモナイトレプリカ作り
サヒメルで家族連れ



完成させたアンモナイトのレプリカを見る子どもたち

大田

アンモナイトのレプリカ作りのイベントが26日、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルであり、子どもたちが石こうや型を使って作品を完成させた。

サヒメルが7月16日から9月25日まで開く夏期特別企画展「ジュラシック・シー」のプレイベントとして企画し、市内外の家族連れら33人が参加した。

参加者は、いわき市アンモナイトセンターの中田健太郎研究員と奥出雲多根自然博物館の菅田康彦副館長ら講師から指導を受け、石こうと水を紙コップに入れて混ぜ、本物のアンモナイトからとった型に入れた。固まるまで待った後、型から慎重に抜いて、直径5～8㌢程度のレプリカを仕上げた。

参加した島根大付属小学校3年の井上耀志君(8)は「石こうと水を混ぜ合わせるところが難しかった。レプリカは部屋の机の上に飾りたい」と笑顔で話した。（松浦光芳）

山陰中央新報　H28.6.28(火)

三瓶の魅力 語り合う

サヒメル25周年記念式典に併せ
地元3校児童らサミット

大田

大田市三瓶町にある3小学校の児童が地域への思いを語り合う「さんべ夢未来サミット」が15日、同町の県立三瓶自然館サヒメルであった。児童が感じる三瓶の魅力や同館のイベントへの提案が発表され、参加者が地元の良さを再認識した。

サミットは、同館が児童の意見を運営に生かそうと、開館25周年記念式典に併せて初めて開催。志学、北三瓶、池田の3小学校の1～6年生計63人、市の関係者など合わせて約100人が出席した。

三瓶町の魅力について話す児童

各校の代表児童4人と同市の大国晴雄教育長がパネリストとなり、志学小6年の高橋用篤君(11)は「三瓶の魅力は自然の豊かさ。毎年全校で登山をしている三瓶山を、友達のように身近に感じている」と発表。北三瓶小6年の大国華奈さん(11)は、姫逃池に咲くカキツバタの美しさを紹介し、「自然に囲まれ、毎日新鮮な空気を吸うことができる」と語った。

同館の運営についても意見が出され、池田小6年の森愛花さん(11)は「冬に、子ども大人もできるようなアートイベントをしてほしい」と提案。志学小6年の尾崎凌空君(12)は「サヒメルは標本がたくさんあり、勉強になる。多くの人に三瓶の自然や人々の温かさに触れてほしい」と願った。

（松浦光芳）

山陰中央新報　H28.7.16(土)

（第3種郵便物認可）

全長7メートル 首長竜もお目見え

骨格標本や化石200点 中生代の海の生物紹介

サヒメルで「ジュラシック・シー」

展示された全身骨格標本などを見る来場者

大田

中生代（約2億5千万～約6600万年前）の海に栄えた生物をテーマにした企画展「ジュラシック・シー～海の恐竜とぐるぐるアンモナイト～」（県立三瓶自然館、しまね自然と環境財団主催、山陰中央新報社など共催）が16日、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで始まった。巨大な首長竜の化石レプリカやアンモナイトなどが展示され、来場者の関心を誘っている。9月25日まで。

（松浦光芳）

中生代の海の生物や進化の様子について理解を深めてもらおうと企画。代表的な魚竜・オフタルモサウルス（全長5メートル）の化石レプリカや、魚竜・イクチオサウルス（全長4メートル）の全身骨格標本など約200点が並ぶ。全長7メートルある約7千万年前の首長竜・ヒドロテロサウルスの化石レプリカもボードを使って紹介し、説明文で体の特徴などを伝えている。

また、直径20～60センチの宝石になったアンモナイトの「アンモライト」は、見る角度によって色が緑や赤、青などに変わり、目を引いている。

会場では、家族連れらが迫力のある展示を興味深そうに観賞。東京都小平市から家族で訪れた会社員の秦隆次さん(38)は「普段見ることができない展示で、面白かった」と話した。

入場料は大人千円、小中高生200円。

山陰中央新報　H28.7.17(日)

県立三瓶自然館サヒメル

アンモナイト、見つけた

コンテナで発掘体験「化石ハンター」始まる

大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで開催されている、開館25周年記念の夏期特別企画展「ジュラシック・シー～海の恐竜とぐるぐるアンモナイト」の関連イベントとして、アンモナイトの化石を発掘する「化石ハンター～本物を探せ！」が始まり、家族連れなどが参加して、コンテナの中に入ったアンモナイトの化石の発掘を楽しんでいる。

新館入り口前の会場には、小石がぎっしり入れられた縦約60㌢、横約90㌢のコンテナが置かれており、この中にからアンモナイトの化石を発掘するもの。参加者は移植ごてや手袋をした手で発掘体験をし、3分間で発掘したアンモナイトのうちの希望する1個は持ち帰ることができる。

アンモナイトのほかに、番号が書かれた石も入っており、この「秘密のキューブ」を発掘すると、恐竜の歯や骨の化石、大型のアンモナイトがプレゼントされるとあって、参加した子ども大人も、時間いっぱい、コンテナの小石をかき分けて発掘していた。

コンテナの中のアンモナイトを発掘する参加者＝3日、サヒメル

広島県庄原市から家族で来た、小学4年生の柳川智樹君（9）は5番のキューブを掘り当て、大型のアンモナイトを手に入れた。

「恐竜が好きなので、館内の展示は面白かったし、ドームの映画も面白かった。妹と協力して探したら、真ん中の下のほうに5番の石があった。大きなアンモナイトをもらってうれしかった」と笑顔だった。

化石ハンターは9月25日まで、平日は午後1時30分から、土・日・祝日は午前10時から午後1時半から参加でき、参加料は入館料のほかに200円が必要。希望者は100円追加で標本箱作り体験もできる。

サヒメルの開館時間は午前9時半から午後5時（土曜日は午後6時）まで。毎週火曜日が休館。企画展の入館料は大人1千円、小中高生200円。問い合わせは同館（0854・86・0500）へ。

島根日日新聞　H28.9.4(日)

サヒメル企画展5万人

来場者 節目の家族に記念品

大田

海の古代生物をテーマに、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで開催されている企画展「ジュラシック・シー～海の恐竜とぐるぐるアンモナイト～」（県立三瓶自然館、しまね自然と環境財団主催、山陰中央新報社など共催）の来場者が10日、5万人を突破した。

節目の来場者となったのは、出雲市稲岡町の主婦吉田愛子さん（29）ら家族3人。酒井浩純館長から年間パスポートやマスコットキャラクター「テンピー」の縫いぐるみなどを受け取った。吉田さんは「今日は化石を見ることを楽しみに来ました」と笑顔で話し、展示を観賞した。

酒井浩純館長（左）から記念品を受け取る吉田愛子さん（左から3人目）と家族

同展は、中生代（約2億5千万～約6600万年前）の海に栄えた生物を題材にした企画展で、魚竜の化石レプリカや全身骨格標本など約200点が並んでいる。25日まで。（松浦光芳）

山陰中央新報　H28.9.11(日)

三瓶山で渡り鳥

ミヤマホオジロ繁殖

大田市の三瓶山で、渡り鳥のミヤマホオジロが繁殖しているのを確認したと県が発表した。本州では1993年に広島県の臥竜山で確認されて以来2例目という。

雌の成鳥1羽と幼鳥5羽

県立三瓶自然館サヒメル（同市三瓶町）によると、ミヤマホオジロは中国や朝鮮半島で繁殖し、越冬のため日本や台湾などに渡る。国内では西日本に多く飛来し、中山間地から平野部の雑木林などでよく見られるという。体長は成鳥で約16㌢。

三瓶山でさえずりが確認されたことから、サヒメルは昨年調査を開始。今年8月2～4日、繁殖中と思われる雌の成鳥1羽と幼鳥5羽の計6羽が見つかった。6羽には個体識別のできる足輪をつけて放し、今後も三瓶山で繁殖が続くかどうか調査を続けるという。

県内での繁殖確認も2例目。昨年夏、海士町と西ノ島町の2島で最初に確認され、今年も続いているという。（石川達也）

▲三瓶山で見つかった雌の成鳥▼幼鳥＝いずれも県立三瓶自然館サヒメル提供

朝日新聞　H28.9.8(木)

三瓶山で神楽の舞

24日 初の大会に7社中集結

三瓶山での神楽の舞を初開催する三瓶山神楽大会実行委員会のメンバー、後方は三瓶山＝大田市山口町の国立三瓶青少年交流の家で

国引き神話の舞台、三瓶山で初の神楽の舞

出雲国風土記が伝える国引き神話の舞台、三瓶に島根、広島両県の神楽団7社中約150人が集結する神楽大会「THE神楽in三瓶山」が24日、国立三瓶青少年交流の家・三瓶山展望広場（大田市山口町）で初めて開催される。昼から夜まで じっくりと神楽を堪能できる公演。三瓶山は石見神楽の源流の地とされ、山を背景に舞うことは石見神楽の原点回帰となりそうだ。

実行委事務局に貼られている三瓶山神楽大会のポスター

三瓶山展望広場（大田市山口町）で初めて開催される。昼から夜までじっくりと神楽を堪能できる公演。三瓶山は石見神楽の源流の地とされ、山を背景に舞うことは石見神楽の原点回帰となりそうだ。

地元有志でつくる実行委員会（会長、児玉賢次・市観光協会三瓶支部長）が神楽文化の再発見と、子どもたちの郷土愛を育むために企画した。児玉委員長は「静寂な山に囲まれた神楽の聖地で、山にこだまする太鼓、笛の音が響き渡り出す神楽の息吹を感じてほしい」と来場を呼びかけている。

舞を披露するのは、石見神楽から「三瓶山神代神楽社中」や「大屋神楽社中」「土江子ども神楽団」（いずれも大田市）など5団体。広島県からは「東山神楽団」（同県北広島町）、「高猿神楽団」（同安芸高田市）の2団体。

三瓶山神代神楽社中の稲田洋二さん(41)は「三瓶山をバックに神楽を舞うのは初めて。晴れ晴れしい気持ちで臨みたい」と、高揚感をのぞかせた。

神楽の舞は開場午前11時半、正午に開演し、午後8時半終了予定。料金は前売り2000円、当日2500円。問い合わせは実行委事務局（0854・83・2011）。【関谷徳】

毎日新聞　H28.9.16(金)

トイレや駐車場整備へ

三瓶山など国立公園内

外国人観光客の誘致備え

島根県

外国人観光客を国立公園に誘致する環境省のモデル事業「国立公園満喫プロジェクト」に大山隠岐国立公園が選ばれたのを受け、島根県は、約2億円を投じて三瓶山や島根半島の海岸部にある県有施設のトイレや駐車場整備に集中的に取り組む。具体的な誘致事業を展開する前に下地を整えるのが目的。21日に開会する11月定例県議会に関連予算案を提出する。

鳥取県は既に、大山の登山道改修費を含む計2億6千万円を2016年度の県一般会計補正予算に計上。東京五輪・パラリンピックが開かれる20年に向け、計20億円規模の集中整備を計画している。

島根県の溝口善兵衛知事も、9月定例県議会の答弁で、国立公園の魅力が外国人に十分伝わっていないとの認識を示した上で「快適に（時間を）過ごせる環境が必要だ」と述べ、対応に本腰を入れる考えを明らかにしていた。

同国立公園内の県有施設は三瓶自然館（大田市三瓶町）などがあり、トイレ8カ所を外国人が使いやすい洋式にするほか、駐車場2カ所の改修設計などを行う。隠岐諸島は既に世界ジオパーク認定の関連事業で整備を進めている。

ソフト対策を含む具体的な誘致事業は、島根県内の各エリア関係自治体などでつくる地域部会と、各部会が集まる地域協議会での議論を踏まえ、別途予算化する。

（多賀哲文）

山陰中央新報　H28.11.9(火)

サヒメル入館300万人

大田 鳥取の家族に記念品

藤原孝行副知事（左）から記念品を受け取る吉村真さん家族＝大田市三瓶町、島根県立三瓶自然館サヒメル

大田市三瓶町の島根県立三瓶自然館サヒメルの入館者が5日、300万人に達し、節目の入館者に記念品が贈られた。

300万人目となったのは、鳥取市永楽温泉町の会社員、吉村真さん(32)と妻の理紗さん(32)、長女・綾華ちゃん(3)、長男・亮祐ちゃん(1)の家族。藤原孝行副知事から花束や年間パスポート、同館のマスコットキャラクター「ペンピー」の縫いぐるみなどを受け取った。

吉村さんは「300万人目になり、とてもうれしい。展示などを通して自然にふれられるところがサヒメルの魅力」と話し、県内の動物を紹介するコーナーなどを見て回った。

同館は、「自然との共生とふれあい」をテーマに島根県の自然について幅広く学び、体験することができる拠点施設として、1991年に開館。96年に入館者50万人に達し、2009年に200万人を達成した。

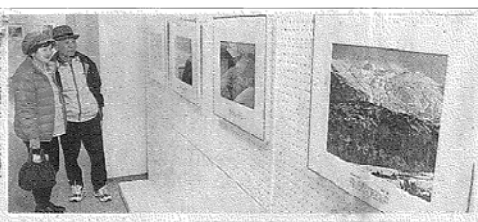
（松浦光芳）

山陰中央新報　H28.11.6(日)

鳥や風景 力作並ぶ写真展

三瓶自然館でSSP会員

大田



写真を鑑賞する来場者

全国の写真家や研究者などでつくる日本自然科学写真協会（SSP）の会員が撮影した作品を紹介する写真展が、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで開かれている。鳥や風景などを題材にした力作が並び、来場者の関心を集めている。2月12日まで。

同協会の巡回写真展として開催し、約100点を展示。冬の十勝岳（北海道）や蓮池の風景、寒海の写真など、自然の美しさや雄大さを伝える作品が並ぶ。バッタが飛ぶ様子やカエルを捕まえて飛び立とうとするサシバ、雪山で辺りをうかがうライチョウなど、生き物の姿を捉えた写真もあり、家族連れらが熱心に鑑賞している。

人物しまね文学館
入館／一般1600円ほか
☎0852-28-5480

同館の安藤誠也学芸員は「自然界の現象や生物の躍動感を楽しんでほしい」と話した。料金は大人600円、小中高生200円、未就学児は無料。

（松浦光芳）

山陰中央新報　H29.1.7(土)

5．資　料

新聞寄稿状況（p17「Ⅱ．島根県立三瓶自然館 ⑦新聞への寄稿」関係）

掲載日	掲載紙	タイトル	担　当
4/ 6	山陰中央新報	水星を見つけよう	竹 内 幹 藏
4/10	読売新聞	全球凍結と生命の「爆発」	遠 藤 大 介
4/13	島根日日新聞	しまねにもアンモナイトがいた!?	遠 藤 大 介
4/20	山陰中央新報	月の写真を撮ろう	竹 内 幹 藏
4/27	島根日日新聞	バードリスニングのススメ	星野由美子
5/ 4	山陰中央新報	アークトゥルス（麦星）	竹 内 幹 藏
5/11	島根日日新聞	道草のすすめ	井 上 雅 仁
5/18	山陰中央新報	アンタレスと火星、土星	竹 内 幹 藏
5/25	島根日日新聞	夜空に赤く光る「火星」	矢 田 猛 士
5/29	読売新聞	ナガハシスミレ	井 上 雅 仁
6/ 1	山陰中央新報	太陽	竹 内 幹 藏
6/ 8	島根日日新聞	スミナガシ	皆 木 宏 明
6/12	読売新聞	トラツグミの鳴き声	星野由美子
6/15	山陰中央新報	プラネタリウムで星座を覚えよう	竹 内 幹 藏
6/22	島根日日新聞	夏の特別企画展「ジュラシック・シー」	安 藤 誠 也
6/29	山陰中央新報	土星の環	竹 内 幹 藏
7/ 5	山陰中央新報	天然記念物　活用も重要	中 村 唯 史
7/ 6	島根日日新聞	昼の長い時期	太 田 哲 朗
7/10	読売新聞	火星と土星	矢 田 猛 士
7/13	山陰中央新報	二重星を見よう	竹 内 幹 藏
7/20	島根日日新聞	夏期特別企画展が開幕しました	遠 藤 大 介
7/27	山陰中央新報	国際宇宙ステーションを見よう	竹 内 幹 藏
8/ 3	島根日日新聞	研究助成金をいただきました	星野由美子
8/10	山陰中央新報	夏休み注目の天文現象	竹 内 幹 藏
8/17	島根日日新聞	申年とサルスベリ	井 上 雅 仁
8/21	読売新聞	盆トンボ	皆 木 宏 明
8/24	山陰中央新報	天の川を見に行こう	竹 内 幹 藏
8/31	島根日日新聞	中秋の名月	矢 田 猛 士
9/ 7	山陰中央新報	月のウサギ	竹 内 幹 藏
9/11	読売新聞	名月とクレーター	太 田 哲 朗
9/14	島根日日新聞	カブトムシ	皆 木 宏 明
9/21	山陰中央新報	はくちょう座	竹 内 幹 藏
9/28	島根日日新聞	三瓶山のモグラたち	安 藤 誠 也
10/ 4	山陰中央新報	伝統継承　地域の魅力に	中 村 唯 史
10/ 5	山陰中央新報	十三夜の月	竹 内 幹 藏
10/ 9	読売新聞	デスモスチルスの謎	安 藤 誠 也
10/12	島根日日新聞	星を見るのにいい時期は	太 田 哲 朗
10/19	山陰中央新報	秋の四辺形	竹 内 幹 藏
10/26	島根日日新聞	宍道湖35杯分?	遠 藤 大 介
11/ 2	山陰中央新報	海の水をすくう北斗七星	竹 内 幹 藏

11/ 3	山陰中央新報	地球照	竹 内 幹 藏
11/ 9	島根日日新聞	鳥類調査の葛藤	星野由美子
11/13	読売新聞	マントルからやってきた石	遠 藤 大 介
11/16	山陰中央新報	ペルセウス座	竹 内 幹 藏
11/23	島根日日新聞	木と樹の違いとは?	井 上 雅 仁
11/29	山陰中央新報	巨木訪ねる会　地域に光	中 村 唯 史
12/ 7	島根日日新聞	木星の衛星「エウロパ」	矢 田 猛 士
12/11	読売新聞	酉年とハコベ	井 上 雅 仁
12/14	山陰中央新報	早起きして空を見よう	竹 内 幹 藏
12/21	島根日日新聞	カマドウマ	皆 木 宏 明
12/28	山陰中央新報	プレアデスとヒアデス	竹 内 幹 藏
1/11	山陰中央新報	オリオン座	竹 内 幹 藏
1/15	読売新聞	なぜ「鶏年」でない?	星野由美子
1/18	島根日日新聞	夜の笠雲	太 田 哲 朗
1/24	山陰中央新報	魅力が満載　冬の三瓶山	中 村 唯 史
1/25	山陰中央新報	宵の明星	竹 内 幹 藏
2/ 1	島根日日新聞	アンモナイトのステンドグラス?	遠 藤 大 介
2/ 8	山陰中央新報	あと星	竹 内 幹 藏
2/12	読売新聞	鳥にまつわる星座や星雲	矢 田 猛 士
2/15	島根日日新聞	剥製という標本	星野由美子
2/22	山陰中央新報	ふたご座	竹 内 幹 藏
3/ 1	島根日日新聞	ナゾの物体、イカタケ	井 上 雅 仁
3/ 7	山陰中央新報	自動活動通し地域理解	中 村 唯 史
3/ 8	山陰中央新報	月の形と名前	竹 内 幹 藏
3/12	読売新聞	キノコを食べる虫	皆 木 宏 明
3/15	島根日日新聞	見ごろを迎える「木星」	矢 田 猛 士
3/22	山陰中央新報	アルデバラン食	竹 内 幹 藏
3/29	島根日日新聞	コマルハナバチ	皆 木 宏 明

予約天体観察会実施状況（p18「Ⅱ．島根県立三瓶自然館 ⑩天体観察会 b予約天体観察会」関係）

月	日	団　体　名	人数
4	14	広島製菓専門学校	79
	14	三次市立君田中学校	18
	14	三次市立吉舎中学校	30
	28	広島情報専門学校	111
5	12	北広島町立豊平中学校	28
	13	広島市立祇園東中学校	206
	19	静間･五十猛･鳥井小学校	32
	23	広島市立城南中学校	276
	25	出雲市立長浜小学校	47
	25	広島市立三入小学校	72
	26	広島市立安西小学校	74
	29	広島生活福祉専門学校	15
	30	浜田市立金城中学校	29
6	1	広島市立高陽中学校	114
	2	益田市立真砂小学校	18
	22	広島市立三和小学校	19
	23	大田市立池田小学校	32
	23	松江市Cブロック宿泊学習	39
	24	島根県自然観察指導員講習会	13
	29	三次市立みらさか小学校	29
	30	広島市立大町小学校	116
7	6	広島大学付属三原中学校	85
	7	広島市立可部小学校	110
	10	東広島市立八本松小学校	138
	13	広島市立安北小学校	121
	15	出雲市立大社幼稚園	20
	21	出雲市立神門幼稚園	24
	21	広島市立上安小学校	59
	21	三次市立甲奴小学校	15
	22	広島市立東野小学校	127
	24	三次市立吉舎小学校	26
	24	三次市立川西小学校	12
	24	波多コミュニティー協議会	54
	24	広島大和パスファインダークラブ	18
	27	広島市立久地南小学校	35
	27	三次市立小童小学校	11
	27	広島市立幟町小学校	104
	28	浜田児童相談所	14
	28	三次市立川地･青河連合小学校	23
	29	あんず保育園（児童クラブ）	18
	29	斐川西中学校科学部	19

月	日	団　体　名	人数
7	29	広島市立戸坂中学校科学部	10
	31	広島市立五日市南小学校	172
8	3	広島市立長束西小学校	56
	3	泰蔵寺土曜学校	30
	3	安来学園	20
	4	出雲市立平田中学校科学部	18
	4	稗原コミュニティセンター	12
	4	波多コミュニティー協議会	53
	5	教員免許状更新講習	32
	7	廿日市市立廿日市小学校	137
	10	スポーツトレーニングPLUS	17
	10	宍道ジュニアリーダーズクラブ	27
	19	御所市青少年サマーキャンプ	34
	21	広島市立宇品小学校	212
	24	庄原市立比和小学校	13
	24	広島市立古田台小学校	39
	24	福山市立今津小学校	54
	25	広島市立梅林小学校	136
	26	わかたけ学園	20
	26	広島市立可部南小学校	76
	28	広島市立五日市中央小学校	98
9	2	府中町立府中東小学校	81
	7	広島市立本川小学校	68
	7	庄原市立板橋小学校	28
	8	庄原市立総領小学校	14
	8	鳥取大学合気道部	18
	11	雲南市立寺領小学校4年生学年活動	34
	12	島根県立大田高等学校理数科1年	33
	15	広島市立伴南小学校	197
	16	さんべスマイルキャンプ	9
10	9	国立三瓶青少年交流の家主催事業	32
	12	開星中学校･高等学校	195
	13	庄原市立山内小学校	14
	13	広島市立彩が丘小学校	47
	20	米子工業高等専門学校	46
11	23	個人グループ	45
	25	大田小学校6年3組親子会	28
1	25	なぎさ公園小学校	70
	26	あおぞら保育園	20
3	30	ボーイスカウト大社第一団	9
合計		81	4,684

予約自然観察会実施状況（p19「Ⅱ．島根県立三瓶自然館 ⑪自然観察会 b予約自然観察会」関係）

月	日	団体名	人数
4	18	大田市立北三瓶小学校	6
5	2	出雲市立湖陵中学校	42
	6	大田市立池田、北三瓶、志学小学校合同	26
	18	美郷町立大和中学校	13
6	3	出雲市立窪田小学校	25
	3	益田市立真砂小学校	18
	13	美郷町立邑智小学校	45
7	8	広島大学附属三原中学校	85
	21	安田学園安田小学校	11
	22	安田学園安田小学校	4
	24	広島大和パスファインダークラブ	20
	28	みずほ地域放課後児童クラブ	52
	29	山村留学センター	14
8	4	稗原コミュニティセンター	11
	5	稗原児童クラブ	21
	9	武庫川女子大学附属中学校	37
9	1	出雲市立東小学校	43
	9	庄原市立総領小学校	14
	9	大田市立川合小学校	24
	14	雲南市立鍋山小学校	21
	14	出雲市立佐田中学校	27
	21	出雲養護学校仁摩分教室高等部	13
	21	出雲市立窪田小学校	9
	23	大田市立久屋小学校	22
10	3	出雲市立須佐小学校	26
	6	出雲市立大社小学校	55
	6	邑南町立矢上小学校	78
	7	出雲市立平田小学校	60
	7	邑南町立高原小学校	19
	12	大田市立大森小学校	6

月	日	団体名	人数
	12	江津市立東小学校	37
	12	開星中学校･高校	197
	13	出雲市立須佐小学校	17
	14	邑南町立石見東、矢上、日貫小学校合同	45
	19	美郷町立邑智小学校	31
	21	江津市立川波小学校	36
	21	雲南市立三刀屋小学校	51
	23	広島勤労者山の会	23
	24	浜田市立岡見小学校	22
	24	大田幼稚園、久手幼稚園合同	28
	24	川本町立川本小学校	48
	27	大田市立池田小学校	8
	28	大田市立北三瓶小学校	5
	28	美郷町立大和小学校	17
	31	浅利･さくら保育園合同	27
11	2	大田市立朝波小学校	17
	4	美郷町立邑智小学校	28
	11	大田市立五十猛小学校	20
1	20	大田市立北三瓶小学校	21
	23	なぎさ公園小学校	73
2	8	それいゆ島根地区	4
合計		51	1602

講師派遣状況（p19「Ⅱ.島根県立三瓶自然館 ⑫環境教育･環境学習事業 講師派遣」関係）

月	日	団体名	場所	内容	講師	人数
4	10	大代高山会	大江高山	春の大江高山自然観察登山での解説	井上	40
	10	キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の自然観察、採集、試食	安藤 松原	22
5	8	波多コミュニティ	さえずりの森	春の野草観察会とタケノコ狩りでの解説	松原	15
	14	大田市退職校長園長会	大田市農林福祉会館	身近な野鳥に関する講演会	星野	25
	18	長久文化協会	長久まつづくりセンター	野鳥に関する講演会･観察会	星野	40
	22	津和野公民館･地倉沼を守る会	地倉沼	チョウジソウ観察会での解説	井上	45
	27 29	日本植生史学会	安蔵寺山･三瓶山他	日本植生史学会談話会巡検での解説	井上	6
6	8	島根大学生物資源科学部	島根大学演習林	野外学習における昆虫同定の指導	皆木	40
	8	口和公民館	ほたるの館	ゲンジボタル学習会での講話	皆木	26
	10	島根県高等学校文化連盟自然科学専門部	三瓶青少年交流の家	自然科学系部活動での実験観察研修の対応	井上 竹内 皆木 太田 安藤 遠藤	90
	15	大田市立池田小学校	大田市立池田小学校	三瓶山の植生や希少植物についての講話	井上	8
	16	島根県立大田高等学校	島根県立大田高等学校	課題研究体験プログラムの対応	竹内 星野 皆木 矢田	26
	17	大田市立池田小学校	三瓶町池田付近の水田	田んぼの生きもの観察での解説	皆木	8
	28	雲南市立木次小学校	雲南市立木次小学校	校庭の樹木についての学習	井上	41
7	3	樹冠ネットワーク	水の国	カブトムシの生態や特徴についての講話	皆木	40
	13	智辯学園	三瓶青少年交流の家	三瓶の自然や文化についての講話	安藤	118
	23	島根県自然環境課	三瓶自然館	自然保護レンジャー研修会での危険生物などの講話	安藤	30
	26	波多コミュニティ	さえずりの森	昆虫観察会での指導	皆木	20
	27	浜田市立雲城公民館	姫逃池・赤名湿地	ハッチョウトンボ現地見学会での解説	皆木	35
	28	北三瓶まちづくりセンター	北三瓶まちづくりセンター多根分室	三瓶山の噴火の再実験の指導	遠藤	50
	29	公益社団法人島根県獣医師会	サンラポーむらくも	島根県獣医師学会「市民公開講座」での講話	井上	80
	31	池田地区連合自治会	池田まちづくりセンター	三瓶山の噴火や地震に関する講話	中村	25

8	1	大田市	三瓶山北の原～西の原	三瓶山の植生についての研修	井上	8
	3	波多コミュニティ協議会	さえずりの森	昆虫観察会での指導	皆木	20
	7	心光院サマースクール実行委員会	心光院	サマースクールでの演示	安藤	40
	7	国立三瓶青少年交流の家	三瓶自然館	教員免許状更新講習での指導	井上	35
	12	島根大学生物資源科学部	島根大学三瓶演習林庁舎	基礎フィールド演習における昆虫同定の指導	皆木	25
	26	大田市	三瓶山北の原	薬草観察会での解説	井上	40
9	4	大田市	三瓶山北の原～西の原	三瓶山の植生についての研修	井上	8
	9	雲南市立掛合中学校	さえずりの森	さえずりの森の動植物について	星野	60
	9	島根県教育センター	三瓶自然館	高等学校理科教育生物講座の講師	井上	19
	24	吉賀町教育委員会	吉賀町樋口	アンモナイト発掘体験講座での指導	遠藤	28
	25	島根県立しまね海洋館アクアス	アクアス周辺	アクアス周辺で見られる昆虫の観察指導	皆木	40
10	8	仁摩図書館	仁摩図書館	三瓶山の植生についての研修	井上	8
	27	大田市	三瓶山北の原～西の原	三瓶山の植生についての研修	井上	10
	27	大田市立池田小学校	三瓶山西の原	ヒロハノカワラサイコの学習	井上	12
11	5	仁摩図書館	仁摩図書館	三瓶山の昆虫についての講話	皆木	2
	9	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	三瓶山の自然についての講話	井上 遠藤	80
	25	出雲市立塩冶小学校	出雲市小伊津海岸	小伊津海岸での地層学習	遠藤	149
12	1	大田市立池田小学校	出雲市立大社小学校	三瓶山の火山活動と地形形成について	中村	51
	5	仁摩図書館	仁摩図書館	三瓶山の鳥類についての講話	星野	3
2	3	大田市立池田小学校	大田市立池田小学校	三瓶について	中村	6
3	9 11	公益財団法人日本自然保護協会	広島市三滝少年自然の家	自然観察指導員養成事業における講師として	星野	50
	12	島根県立しまね海洋館アクアス	しまね海洋館アクアス	野鳥観察の講師として	星野	20
	17	国引きジオパーク推進協議会	松江市役所	国引きジオパーク構想エリアの自然について	井上	20
	19	川本町自然大好きネットワーク	川本町谷戸	イズモコバイモについての講話	井上	40
	20	川本町自然大好きネットワーク	川本町谷戸	イズモコバイモについての講話	井上	20
合　計					47	1,321

６．評議員会･理事会等

１．評議員会

①第10回評議員会(平成28年度定時評議員会)

・開 催 日：平成28年6月13日
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：評議員7名、監事1名
・議　　題：報告事項　事業概況
　　第1号議案　平成27年度事業報告及び決算報告の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

２．理 事 会

①第15回理事会(平成28年度第1回定時理事会)

・開 催 日：平成28年5月23日
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：理事4名、監事1名
・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
　　第1号議案　平成27年度事業報告及び決算報告の件
　　第2号議案　辞任に伴う三瓶自然館運営委員選任の件
　　第3号議案　第10回評議員会(定時評議員会)の招集に関する件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

②理事会(決議の省略)

・開 催 日：平成28年9月8日
・議 決 数：理事5名
・議　　題：第1号議案　島根県立三瓶自然館運営委員の選任に関する件
・結　　果：原案どおり承認

③第16回理事会(平成28年度第2回定時理事会)

・開 催 日：平成29年3月16日
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：理事5名、監事2名
・議　　題：報告事項1　理事長及び常務理事の職務執行状況
　　報告事項2　規程改正に関する件
　　第1号議案　平成28年度予算補正の件
　　第2号議案　平成29年度事業計画及び予算の件
　　第3号議案　重要な職員の任免に関する件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

３．三瓶自然館運営委員会

本委員会は、当財団が指定管理者として島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

①第６回運営委員会

・開 催 日：平成28年9月14日
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：12名
・概　　要：三瓶自然館の運営状況と課題について意見交換を行った。主な内容は、国立公園満喫プロジェクトについての概要説明、三瓶自然館と附属施設の利用促進、三瓶自然館の常設展示の更新についてなど。

公益財団法人しまね自然と環境財団

Shimane Nature and Environment Foundation